

バスケットボールプラザ

Basketball Plaza

No.96



2022年12月

NPO 法人 日本バスケットボール振興会

第13回シニアバスケットボール交歓大会 in YOYOGI

期日：2022年10月27日(木)・28日(金)2日間

場所：国立代々木競技場 第二体育館

<参加チーム>



シルバーキッズレディース神戸



シルバーキッズレディース名古屋



シルバーキッズ



J.J 和歌山



セブンブラザーズ



STRAS OF STARS



千葉 Coki-Coki



駄馬



横浜ビー・シーガールズ



70歳(A)
横浜・埼玉・SOS



70歳(B)
Coki-Coki・駄馬・SK

目 次

- 令和4年度 活動報告と今後の進め方事務局 . . . 2
- FIBA 女子ワールドカップ2022 優勝はアメリカ 3
「AKATSUKI JAPAN」女子日本代表は予選ラウンド突破できず
- FIBA ワールドカップ 2023 アジア地区グループF 8
Window5：「AKATSUKI JAPAN」男子日本代表の戦果とグループF成績
- 第98回天皇杯は4次ラウンドを終了 11
残る8クラブが決勝トーナメントで優勝を目指す
- 第89回皇后杯・2次ラウンドまでの結果 14
12月14日～18日 代々木第二体育館でのファイナルラウンドへ
- 先人の軌跡歴史部 . . . 16
籠球・藍球・Basket Ball
－大正・昭和初期のころのバスケットボール－
- 関東大学新リーグ戦（新連盟）の発足歴史部 . . . 20
終戦後の学制改革に伴う
- リングに向かって“跳べ”10年後の子供達普及部 . . . 22
板橋区チーム「徳丸モンキーズ」
- 今年最高のプレイを ★👏普及部 . . . 25
第13回シニアバスケットボール交歓大会 in YOYOGI
- 会員だより須田 武志 . . . 31
バスケットボール行脚
- 高校籠球ふるさと記（鹿児島県編）事務局 . . . 36
- 訃報・追悼文事務局 . . . 40
- 事務局だより事務局 . . . 42
- プラザ こぼればなし 43

令和4年度 活動報告と今後の進め方

理事長 渡辺 誠

令和4年度の理事会は定款35条(表決権など)により電磁的方法による決議を行い、「令和4年度通常総会」は定款27条第1項に基づき書面による開催・審議とし「総会資料」(案)を「プラザ94号」に掲載し決議・承認していただきました。

〈主な活動〉

◎ 4/25 福島県Jヴィレッジ、ならはスポーツアリーナ、広野町体育館を訪問し、宿泊施設も見学、担当者と打合せ ◎ 5/25 さわやか財団交流会参加 ◎ 6/9 業務監査・会計監査 ◎ 6/13 京都向日市体育館訪問・向日市スポーツ協会児玉会長面談 京都バスケット100年資料提供、向日市体育館借用のお願い ◎ 6/21 代々木第二体育館事業課打合せ ◎ 6/28 「プラザ94号」発送業務 ◎ 8/10～8/15 夏季休暇 ◎ 9/27 「プラザ95号」発送業務 ◎ 9/28 代々木第二体育館事業課打合せ ◎ 10/12 東京海上日動火災保険(株)訪問 ◎ 10/26 流通経済大学図書館見学 ◎ 10/27・28 シニア交歓大会開催(男子7チーム・女子2チーム、70歳以上2チーム 選手数146名参加)アクティブフープの協力 ◎ 10/28 京都向日市体育館借用の依頼について不可と回答あり ◎ 11/17 100年周年に向けて打合せ(年表・記念誌作成など)

〈事務局〉

◎ 会員の交流を目的にした「秋季講演会・交流会」の開催は中止 ◎ 11月より資料の整理(人名録・プラザ100号索引作成) ◎ 第13回シニア交歓大会開催に向けてチーム、事務連絡、代々木第二体育館事業課打合せ対応・プログラム作成など ◎ 「プラザ」編集協力、発送・日常的事務対応(会計業務・会費管理、事務連絡など)

〈今後の活動予定〉

◎ 12/15 理事会 ◎ 12/22 「バスケットボールの日」狛江市体育館 ◎ 12/末「プラザ96号」発送 ◎ 12/23～令和5年1/9 冬季休暇 ◎ 1/中旬以降 「令和4年度決算・活動報告」「令和5年度予算(案)・活動計画(案)」「令和5年度総会資料(案)」作成 ◎ 3/中旬 総会資料(案)理事会承認

今年度の活動もコロナ感染の状況のなか制限された結果になりましたが、「プラザ」の発行、シニア交歓大会の開催など会員の皆様の協力によって予定通り実行できました。次年度には「プラザ100号」記念号に向けて新たなスタートができるように、祈念します。

※事務局は、現在 毎週火曜日のみ 事務所で活動しています。

以上

FIBA 女子ワールドカップ 2022 優勝はアメリカ

「AKATSUKI JAPAN」女子日本代表は予選ラウンド突破できず

[編集部]

FIBA 女子ワールドカップ 2022 本大会は、2022年9月22日（木）から10月1日（土）までシドニー（オーストラリア）で開催され、各地域から選抜された12チームによるA・B 2グループの予選ラウンドを経て、決勝トーナメントでアメリカが優勝した。

はじめに本大会の結果を、次いで日本代表チームの戦績を報告する。

<予選ラウンド>

グループ分けと戦績

グループA	ベルギー	中国	ボスニア・ヘルツェゴビナ	プエルトリコ	韓国	アメリカ
	7位	2位	14位	10位	12位	1位
グループB	フランス	セルビア	日本	マリ	カナダ	オーストラリア
	6位	8位	9位	26位	5位	3位

下段は2022年10月1日の世界ランク

グループA

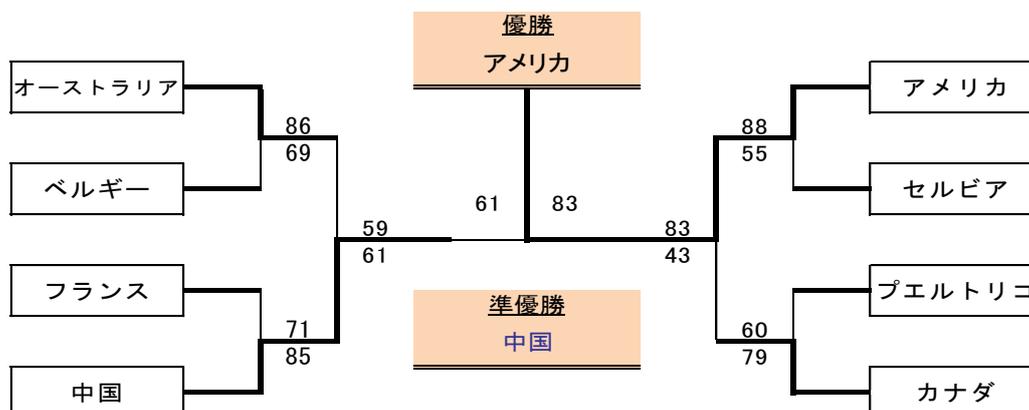
順位	チーム	勝	負
1	アメリカ	5	0
2	中国	4	1
3	ベルギー	3	2
4	プエルトリコ	2	3
5	韓国	1	4
6	ボスニア・ヘルツェゴヴィナ	0	5

グループB

順位	チーム	勝	負	AUS	CAN	SRB	FRA	JPN	MLI
1	オーストラリア	4	1	○	○	●	○	○	○
2	カナダ	4	1	●	○	○	○	○	○
3	セルビア	3	2	●	●	○	○	○	○
4	フランス	3	2	○	●	●	○	○	○
5	日本	1	4	●	●	●	●	○	○
6	マリ	0	5	●	●	●	●	●	○

グループA・Bそれぞれでオリンピック優勝のアメリカと開催国オーストラリアを含む上位4チームが決勝トーナメントに進出する。

<決勝トーナメント>





女子日本代表チーム

代表チームは東京オリンピックでのホーバスヘッドコーチを支えた恩塚亨がヘッドコーチとして下記12名の選手を率いた。メンバーには、渡嘉敷来夢が復帰したが、アメリカWNBAで活躍する町田瑠唯は本人との話合いの結果、参加が見送られた。代わりに東京オリンピックでは代表から外れたが、その後にドイツで活躍した安間志織が参加している。

＜主なスタッフ＞

役 職	氏 名	所 属
ヘッドコーチ	恩塚 亨	東京医療保健大学
アシスタントコーチ	上野 経雄	(公財)日本バスケットボール協会
アシスタントコーチ	鈴木 良和	(株) ERUTLUC

＜「AKATSUKI JAPAN」選手＞

所属は2022年9月27日現在

NO	選手名	P	身長 cm	体重 kg	所 属
3	馬瓜 ステファニー	PF	182	78	トヨタ自動車アンテロープス
5	安間 志織	PG	161	56	UMANA REYER VENEZIA
8	高田 真希	PF	185	74	デンソーアイリス
10	渡嘉敷 来夢	C	193	85	ENEOSサンフラワーズ
14	吉田 舞衣	SG	175	67	シャンソン化粧品 シャンソンVマジック
23	山本 麻衣	PG	163	58	トヨタ自動車アンテロープス
31	平下 愛佳	SG	177	71	トヨタ自動車アンテロープス
32	宮崎 早織	PG	167	57	ENEOSサンフラワーズ
52	宮澤 夕貴	SF/PF	183	73	富士通レッドウェーブ
75	東藤 なな子	SG/SF	175	66	トヨタ紡織 サンシャインラビッツ
88	赤穂 ひまわり	SG/SF	184	71	デンソーアイリス
99	オコエ 桃仁花	PF	182	85	富士通レッドウェーブ
	平均		177.3	70.08	

PG ポイントガード、SG シューティングガード、SF スモールフォワード、PF パワーフォワード、C センター

日本の平均身長 177cm は、予選リーグのグループBで見ると、オーストラリアの 188cm と 10cm の差があり、以外の 4 チームも 183cm～185cm と登録されており 5 cm 以上の身長差がある。

グループB 戦績

順位	チーム	勝	負	オーストラリア	カナダ	セルビア	フランス	日本	マリ						
1	オーストラリア	4	1	○	75 - 72	○	69 - 54	●	57 - 70	○	71 - 54	○	118 - 58		
2	カナダ	4	1	●	72 - 75	○	67 - 60	○	59 - 45	○	70 - 56	○	88 - 65		
3	セルビア	3	2	●	54 - 69	●	60 - 67	○	68 - 62	○	69 - 64	○	81 - 68		
4	フランス	3	2	○	70 - 57	●	45 - 59	●	62 - 68	○	67 - 53	○	74 - 59		
5	日本	1	4	●	54 - 71	●	56 - 70	●	64 - 69	●	53 - 67	○	89 - 56		
6	マリ	0	5	●	58 - 118	●	65 - 88	●	68 - 81	●	59 - 74	●	56 - 89		
各チームの総得失点				失点	得点	失点	得点	失点	得点	失点	得点	失点	得点		
				308	390	301	356	330	332	296	318	333	316	450	306

マリを除くチーム対抗の一試合平均得失点	オーストラリア		カナダ		セルビア		フランス		日本	
	失点	得点	失点	得点	失点	得点	失点	得点	失点	得点
	62.5	68	59	67	65.5	62.75	59.25	61	69.25	56.75

女子日本代表の戦績

「AKATSUKI JAPAN」女子日本代表は、開催前のテストマッチでは連勝と好調を見せていたが、大会予選ラウンドでグループBの4位までに入れず、決勝トーナメントへの進出がかなわなかった。

日本はセルビア戦での敗退で弱点をさらけ出し、その後の3試合も同様のオフENSEを繰り返して一試合 50 得点台を修正できずに終わった。ディフェンスを頑張っても一試合 70 失点以内に抑えたが、得点が伸びなかった原因にコーチングやリードガードのオフENSEでのリード不足があったのではないかと悔やまれる。

日本は1勝4敗、平均得点 63.2、平均失点 66.6 で得点より失点が多く完全なる負け越し。上背で勝る世界の強豪を上回るためには 70 点台の得点を挙げなければ勝ち目はなく得意とする厳しいディフェンスにも限度が見える。

9月22日(木) VS. マリ

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
日本	21	26	19	23	89
マリ	18	11	15	12	56

日本は、第1クォーターでは連続のミスもあり終始僅差でリードしたが、第2クォーターから徐々に点差を広げ、後半も同様の経過でマリに完勝した。

9月23日(金) VS. セルビア

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
セルビア	24	14	16	15	69
日本	9	25	12	18	64

セルビア戦は、後に対戦する3チームが強豪であり、リーグ戦を抜け8強に入って本戦に出るには是非勝たねばならない一戦であった。

第1クォーター、日本はこの重圧のためかミスが多く残り5分までが6得点のみ。一方のセルビアも日本の激しいディフェンスに手を焼いてこの時点で7得点に留まる口

ースコアでの1点差。しかし、この後の5分間でセルビアが17得点する間、日本の単調な攻めは絶対勝つという気迫が感じられず、残り2分余に#8高田が3点シュートを決めたのみで9-24の15点差となった。第2クォーター、日本は、気分一新で立ち向かい、残り1分を切って34-35と1点差まで追い詰めたが、終了間際に3点シュートを決められ、34-38と4点のビハインドで前半を終わった。

後半、第3クォーターの開始早々、日本がミスする間にセルビアは着々と得点を重ね開始から2分で34-45と11点差に開く。その後は両チームともにわずかな得点しかできず、日本の46-54と8点ビハインドで終わる。第4クォーター、日本は、開始早々11点差を付けられるとこの後、点差が縮められず。残り4分の54-65から徐々に点差を詰めたが64-69までで逆転はならなかった。

チーム全員、勝ちたい気持ちは十二分に持っていたと思われ、厳しいディフェンスは見られた。しかし、「絶対勝つ」という気迫が感じられない中途半端なオフェンスに見えた。オフェンスでボールをリングの中まで持ち込むくらいの得点に対する執着が欲しい。勝てた試合に感じるのも非常に残念である。

日本は、相手の厳しいディフェンスでチームプレイができず、3点シュートが各自の得意な態勢から打てず、5/22本(成功率23%)であった。

9月25日(日) VS. カナダ

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
日本	12	13	14	17	56
カナダ	20	21	20	9	70

日本はカナダに、第1クォーター残り2分の時点では10-13と3点差であったが、直後に#23山本の2得点があつて1点差に迫った。その後立て続けに得点されて12-20となった。第2クォーター、第3クォーターも単調なオフェンスで得点できず、最後は39-61と22点の差を付けられて完敗した。

9月26日(月) VS. フランス

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
フランス	16	13	19	19	67
日本	5	21	18	9	53

日本は、第1クォーター、試合開始からミスと貧攻で5点のみの得点。フランスも16点のみで終わる。第2クォーターに入ると第3クォーターまで、日本の追撃は続き残り3分を切った時点で40-41の1点差まで迫るも、第4クォーターを9点のみとミスの多発と共に再度落ち込み、この試合も完敗した。

9月27日(火) VS. オーストラリア

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
オーストラリア	16	20	20	15	71
日本	18	16	9	11	54

日本は、試合開始から少数点差でリードし、12-13 と一時逆転されたが、第1クォーターを 18-16 とした。しかしその後、日本は、拙攻が続いて得点が伸びず、後半、第3クォーターで一桁得点となるなど、この試合はフランス戦と共に世界ランク 8 位（この大会後、9 位に降格）の日本名を辱める試合となった。

<あとがき>

ワールドカップで優勝したチームには、2024 パリ・オリンピックの出場権が与えられるとあって日本代表も金メダルを目指しシドニーへ乗り込んだが、ふたを開けてみると優勝どころか予選リーグで敗退という屈辱を味わってしまった。

選手のメンバーが一部変わったとはいえ、2022 東京オリンピックで銀メダルに輝いた実力はどこへ行ってしまったのだろうか。東京オリンピックでメダル獲得へ導いたトム・ホーバスHCに変わって、ホーバスHCをアシストしていた恩塚亮HCが強化に携わってくれたが、うまくチームをまとめられなかったようである。

東京オリンピックで注目されたポイントガードの町田選手がWNBAに出向いたせいか、まず、ポイントガードの固定化ができなかったことが挙げられる。怪我で東京オリンピックに出場できなかった 193 cmの渡嘉敷選手の活躍を引き出せなかったばかりか、オフェンスミスが多発、ターンオーバーの平均値は1試合 13.8 にも及んだ。これだけミスが多いということは試合の上で自滅を意味するが、中でも目立ったのがいわゆるパスミスで、シュートに行く前に相手にボールを取られてしまうケースが多かった。

次に異様だったのが選手の起用方法である。全員活躍を狙ったのかメンバーの交替が頻々で行われた。女子の場合その日によって好不調の波があることはやむを得ず、好調な選手をある程度長くコートに立たせることが勝利への道筋となる。

テレビ中継で解説者も指摘していたが、短時間の試合出場だと好調さを引き出す前に交替となってしまう、好調の選手を見極められないのではなかろうか。その証拠が3Pシュート成功率に表れている。1試合平均 23.7 本の成功率だが、これでは上背のある手足の長い選手を擁する欧米チームに対抗できない。結果的にシュートミスによりリバウンドを相手に奪われ、日本はディフェンスに多くのスタミナ消費を余儀なくされ、疲労によるロングシュートの失敗につながってしまう。

また、得点のアンバランスも目立った。敗戦した4試合中3試合で1桁得点のクォーターが出てしまっている。相手のディフェンスが厳しかったとしても10分間で1桁得点はいただけず、フランス戦では5点と9点で終わったクォーターもあった。

東京オリンピックで日本に苦杯を舐めたチームはしっかりと対策をしてきて、簡単に3Pシュートを打たせてくれないばかりか、上背と長い手を生かしたブロックで日本の攻撃を封じ込めていた。日本はそれらに対抗するホーメーションもあまり見られなかった。

名将ホーバス氏が男子代表のHCに回ってしまったが、新たに就任されたHCも更なる精進を積み重ねられて、女子日本代表の再強化を期待したいもの。

少なくとも試合中のミスに対して、ベンチで笑みを浮かべているような態度は改善願いたい。

以上

FIBA ワールドカップ 2023 アジア地区グループF

Window 5 : 「AKATSUKI JAPAN」 男子日本代表の戦果とグループF 成績

[編集部]

FIBA ワールドカップ 2023 アジア/オセアニア地区 2次予選 (2nd Round) は、Window 5 が 2022 年 11 月 10 日~11 月 14 日に開催され、各チームが Window 6 の 2 試合を残すのみとなった。

本戦には、アジア/オセアニア地区から開催国推薦の日本とフィリピンを除く各グループ上位 2 チーム、計 6 チームが出場する。Window 5 までの成績で、グループ E からレバノンとニュージーランド、グループ F からはオーストラリアと中国が本戦参加の資格を得ている。

Window 5 での日本代表チーム戦績

日本はアウェーで 11 月 11 日(金)にバーレーン、11 月 14 日(月)にカザフスタンと対戦した。

日本代表チームの主なスタッフと出場選手は下記の通り。

<主なスタッフ>

役 職	氏 名	所 属
ヘッドコーチ	ホーバス トム	公益財団法人日本バスケットボール協会
アソシエイトヘッドコーチ	ゲインズ コーリー	公益財団法人日本バスケットボール協会
アシスタントコーチ	勝久 ジェフリー	川崎ブレイブサンダース

<「AKATSUKI JAPAN」 男子日本代表選手 >

年齢・所属は2022年11月11日現在

NO	選手名	P	身長 c m	体重 kg	年齢 歳	所 属
2	富樫 勇樹	P G	167	65	29	千葉ジェッツ
3	エヴァンス ルーク	C	203	100	31	ファイティングイーグルス名古屋
9	ベンドラメ 礼生	P G	183	83	28	サンロッカーズ渋谷
11	チェンバース アキ	S F	191	90	32	群馬クレインサンダース
17	須田 侑太郎	S G	190	87	30	名古屋ダイヤモンドドルフィンズ
32	シェーファー ※	P F	206	106	24	シーホース三河
33	河村 勇輝	P G	172	68	21	横浜ビー・コルセアーズ
44	フィリピン コー	S G	188	75	26	琉球ゴールデンキングス
45	テーブス 海	P G	188	85	23	滋賀レイクス
71	井上 宗一郎	P F	201	105	23	サンロッカーズ渋谷
88	張本 天傑	P F	198	100	30	名古屋ダイヤモンドドルフィンズ
91	吉井 裕鷹	S F	196	94	24	アルバルク東京
	平均		190.3	88.2	26.8	

PG ポイントガード、SG シューティングガード、SF スモールフォワード、PF パワーフォワード、C センター

※ : シェーファー アヴィ 幸樹

11月11日(金) vs. バーレーン (アウェー会場・マナマ)

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
バーレーン	10	23	24	17	74
日本	24	26	13	24	87

日本は、出足の第1クォーター、3分過ぎには10-0と一方的なゲーム運びとなった。第2クォーター開始で一時得点が停滞したが前半50-33と17点のリードで終わる。

第3クォーターに入るとミスが続き、3分半経過で#3エバンスの3点ショットのみの53-43と10点差に、残り1分ほどでは59-55と4点差まで迫られるが、#88張本の3点シュートも決まり63-57で終わる。最終第4クォーターは順調に得点したが、残り5分ほどで73-67と6点差まで追い詰められた。その後は着実に得点を重ね、結局、87-74と13点のリードで勝利した。

#88張本の22点、#33河村が20点を記録し、チームとして3点シュート42%(15/36)、2点シュート53%(17/32)の成功率であった。フリースロー67%(8/12)はよくない。オフENSリバウンドが相手チーム6個に対して12個であるのは喜ばしい。

11月14日(月) vs. カザフスタン (アウェー会場・アスタナ)

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
カザフスタン	14	13	19	15	61
日本	16	29	28	8	81

第1クォーター、激しい攻防でシーソーゲームとなり低得点で終わる。第2クォーター、相手が相変わらずの不調に対し、#88張本、#33河村が得点を重ね、前半一気に45-27と18点をリードする。第3クォーターも同様にリードを続け、73-46と27点のリードとなる。

第4クォーター、相手がゾーンディフェンスなのか、オフENSから距離をとったルーズディフェンスとなった。日本はこれを攻めあぐんで動きが止まり、フリースロー3本以外、残り5分ほどで#91吉井が2点シュートを、終了直前に#9ベンドラメが3点シュートを決めたが、結局、相手の不調に助けられ、7点を詰められただけで済んだ。

この試合、#91吉井が15得点、#33河村が13得点を記録している。チームとしては、3点シュート36%(10/28)、2点シュート67%(18/27)の成功率であった。フリースローは71%と相変わらず低調である。

あとがき

日本は開催地枠で本戦に出場できるので、地区予選では多くの選手をエントリーして試合をしている。本戦では、NBA選手など、外国で活躍する選手を招聘するので地区予選に出場できた選手の多くがエントリー外になるであろう。あと2試合あるが、もっと活発なプレイが欲しい。一部の選手を除き、まだ、不完全燃焼に見える。

また、今回のような相手チームの場合には小柄なPG選手がペイントエリアからパスアウトができるが、NBA選手が複数在籍するチームの場合には難しいのではなかろうか。ドリブルの多さが目につき、パスワークの上達も必要。

シュートのチーム成功率であるが、今回3点シュートが40%前後とよくなっている。更
に上を目指し、次回 Window 6 で成果を見せて欲しい。

3点シュートの打ちづらさ少し離れたディフェンスではドライブインもやりにくいので、
プレイヤー全員の早い動きが必要と思われる。疲れる第3クォーター、第4クォーターで
も疲れを顔に出さず頑張ってもらいたいもの。

Window 6 の全勝を祈る。

日本代表チームの2次予選残り試合（ホームゲーム）の日程

Window 6 2023年2月23日(木) 日 本 vs. イ ラ ン
2023年2月26日(日) 日 本 vs. バーレーン

グループ F : 2次予選 Window 5 までの各チーム成績

グループ F

順位	チーム	勝	負	オーストラリア	中国	イラン	日本	カザフスタン	バーレーン	*タイペイ / シリア
1	オーストラリア	9	1		○ 76-69 ○ 71-48	○ 98-68 ● 0-20	○ 80-64 ○ 98-52	○ 97-50	○ 104-50	○ 98-61 ○ 90-71
2	中国	8	2	● 69-76 ● 48-71		○ 81-72	○ 79-63 ○ 106-73	○ 68-56	○ 80-67 ○ 80-67	○ 94-58 ○ 97-56
3	イラン	6	4	● 68-98 ○ 20-0	● 72-81		○ 79-68	● 69-73 ● 60-68	○ 82-66 ○ 100-64	○ 80-68 ○ 91-56
4	日本	5	5	● 64-80 ● 52-98	● 63-79 ● 73-106	● 68-79		○ 73-48 ○ 81-61	○ 87-74	○ 76-71 ○ 89-49
5	カザフスタン	5	5	● 50-97	● 56-68	○ 73-69 ○ 68-60	● 48-73 ● 61-81		○ 95-48 ● 51-62	○ 84-74 ○ 81-71
6	バーレーン	2	8	● 50-104	● 67-80 ● 67-80	● 66-82 ● 64-100	● 74-87	● 48-95 ○ 62-51		● 64-80 ○ 76-67

*:チャイニーズ・タイペイ

本戦出場チーム

F I B Aによれば、各地区から選抜予定の30チームのうち11月末現在、開催国枠の日本とフィリピンのほか、オーストラリア、カナダ、中国、コートジボワール、フィンランド、フランス、ドイツ、ギリシャ、イタリア、ラトビア、レバノン、リトアニア、ニュージーランド、スロベニア、スペイン（英字アルファベット順）の15チームが参加資格を得たと発表されている。

30チームの内訳は、アフリカ地区：5チーム、アメリカ地区：7チーム、アジア/オセアニア地区：6チーム、ヨーロッパ地区：12チームである。

以上

第 98 回天皇杯は 4 次ラウンドを終了 残る 8 クラブが決勝トーナメントで優勝を目指す

[編集部]

2022 年度第 98 回天皇杯全日本バスケットボール選手権大会は、各都道府県代表が争う 1 次ラウンドから勝ち進んだ 7 チームに 2 次・3 次ラウンドと順次 B リーグが参加して 4 次ラウンドが 12 月 7 日(水)に終了した。残る 8 クラブは 1 月準々決勝、2 月準決勝、3 月決勝を戦う。

< 1 次ラウンド >

9 月 17 日(土)~19 日(月・祝)、東日本大会・中日本大会・西日本大会として各都道府県全国 47 チームが下記のように 5~8 チームの 7 ブロックに編成され実施された。

勝ち上がりチームを太字アンダーラインで示す。

(チームの配列は日本協会の組み合わせ表による)

東日本大会

東① 宮城県 北斗	福島県 福島 Sirius Blacks	群馬県 DARK RED CRABS
東京都 黒田電気 Bullet Spirits	秋田県 <u>JR 東日本秋田 PECKERS</u>	千葉県 江戸川大学
埼玉県 大東文化大学	栃木県 白鷗大学	
東② 茨城県 筑波大学	岩手県 富士大学	山形県 山形クベーラ
山梨県 日本航空高校	神奈川県 <u>東海大学</u>	北海道 Camellia
青森県 八戸クラブ		

中日本大会

中① 滋賀県 立命館大学	和歌山県 <u>ONELYS wakayama</u>	福井県 DARK RED CRABS
長野県 長野吉田クラブ	静岡県 藤枝明誠高校	愛知県 中京大学
新潟県 帝京長岡高校	大阪府 Fantasia Ltd	
中② 京都府 京都産業大学	岐阜県 Gifu Seiryu Heroes	三重県 RAMPOLE 三重
兵庫県 <u>神戸医療未来大学</u>	富山県 富山大学	奈良県 天理大学
石川県 石川ブルースパークス		

西日本大会

西① 佐賀県 SPOTTY Crows	徳島県 TOKUSHIMA GAMBAROUS ALT	鹿児島県 鹿屋体育大学
沖縄県 <u>沖縄ゼネラルグループ</u>	長崎県 長崎教員クラブ	愛媛県 愛媛ワイルドキャッツ
西② 鳥取県 KARVAN TOTTORI	宮崎県 Magic	香川県 四国電力
広島県 BEANS	大分県 別府溝部学園高校	山口県 <u>山口クラブ</u>
西③ 高知県 鷹城クラブ	岡山県 ナカシマ	福岡県 <u>福岡第一高校</u>
島根県 島根ビッグウェーブ	熊本県 東海大学九州	

<2次ラウンド>

2次ラウンドは、9月23日(金・祝)～25日(日)、1次ラウンドの各ブロックから勝ち進んだ7チームに前シーズンの成績および入替戦等の結果をもとに2022-23シーズンB3リーグに参戦の17クラブが、下記のように5～6チームの4ブロックに編成され対戦した。

結果は下記の通りで、3次ラウンドへの勝ち上がりチームを太字アンダーラインで示す。
(チームの配列は日本協会の組合せ表による)

①	B 3	<u>ベルテックス静岡</u>	中②	神戸医療未来大学	B 3	ヴィアティン三重
	B 3	山口ベイトリオッツ	B 3	横浜エクセレンス		
②	B 3	<u>岩手ビッグブルズ</u>	西①	沖縄ゼネラルグループ	B 3	金沢武士団
	B 3	東京ユナイテッドBC	中①	ONELYS wakayama	B 3	埼玉ブロンコス
③	B 3	<u>トライフープ岡山</u>	東②	東海大学	B 3	立川ダイス
	B 3	品川シティーBC	東①	JR東日本秋田PECKER	B 3	東京八王子ビートルインズ
④	B 3	岐阜スーパース	西②	山口クラブ	B 3	<u>豊田合成スコーピオンズ</u>
	B 3	湘南ユナイテッドB	西③	福岡第一高校	B 3	鹿児島レブナイズ

<3次ラウンド>

3次ラウンドは、10月29日(土)～31日(月)、2次ラウンドの各ブロックから勝ち進んだ4チームに前シーズンの成績および入替戦の結果をもとに2022-23シーズンB1リーグに参戦の前年度成績3位以下22クラブとB2リーグに参戦の14クラブが、下記のように4～6チームの8ブロックに編成され対戦した。結果は下記の通りで、4次ラウンドへの各ブロック勝ち上がりチームを太字アンダーラインで示す。

(チームの配列は日本協会の組合せ表による)

①	B 1	<u>千葉ジェッツ</u>	B 2	越谷アルファーズ	B 3	トライフープ岡山
	B 2	山形ワイヴァンズ	B 2	アルティリー千葉	B 1	レバンガ北海道
②	B 1	広島ドラゴンフライズ	B 1	滋賀レイクス	B 1	仙台89ERS
	B 1	<u>名古屋ダイヤモンドドルフィンズ</u>				
③	B 1	<u>アルバルク東京</u>	B 2	西宮ストークス	B 3	ベルテックス静岡
	B 2	ライジングゼファー福岡	B 2	バンビシヤス奈良	B 1	茨城ロボッツ
④	B 1	<u>* 信州ブレイブ …</u>	B 1	新潟アルビレックスBB		
	B 1	ファイティングイーグルス名古屋			B 1	秋田ノーザンハビネス
⑤	B 1	<u>島根スサノオマジック</u>	B 2	佐賀バルーンナース	B 3	豊田合成スコーピオンズ
	B 2	愛媛オレンジバイキングス	B 2	長崎ヴェルカ	B 1	大阪エヴェッサ
⑥	B 1	<u>群馬クレインサンダーズ</u>	B 1	京都ハンナリーズ		
	B 2	熊本ヴォルターズ	B 1	シーホース三河		
⑦	B 1	川崎ブレイブサンダーズ	B 2	福島ファイヤーボンズ	B 3	岩手ビッグブルズ
	B 2	アースフレンズ東京Z	B 2	青森ワッツ	B 1	<u>横浜ビー・コルセアーズ</u>
⑧	B 1	富山グラウジーズ	B 1	<u>三遠ネオフェニックス</u>		
	B 2	香川ファイブアローズ	B 1	サンロッカーズ渋谷		

*：信州ブレイブウォリアーズ

<4次ラウンド>

4次ラウンドは、3次ラウンドの各ブロックから勝ち進んだすべてB1クラブの8チームが2クラブごとの4ブロックに編成され、12月7日(木)、下記会場において対戦した。

- ① 千葉会場（船橋アリーナ）、
- ② 東京会場（アリーナ立川立飛）、
- ③ 島根会場（松江市総合体育館）、
- ④ 神奈川会場（トッケイセキュリティ平塚総合体育館）

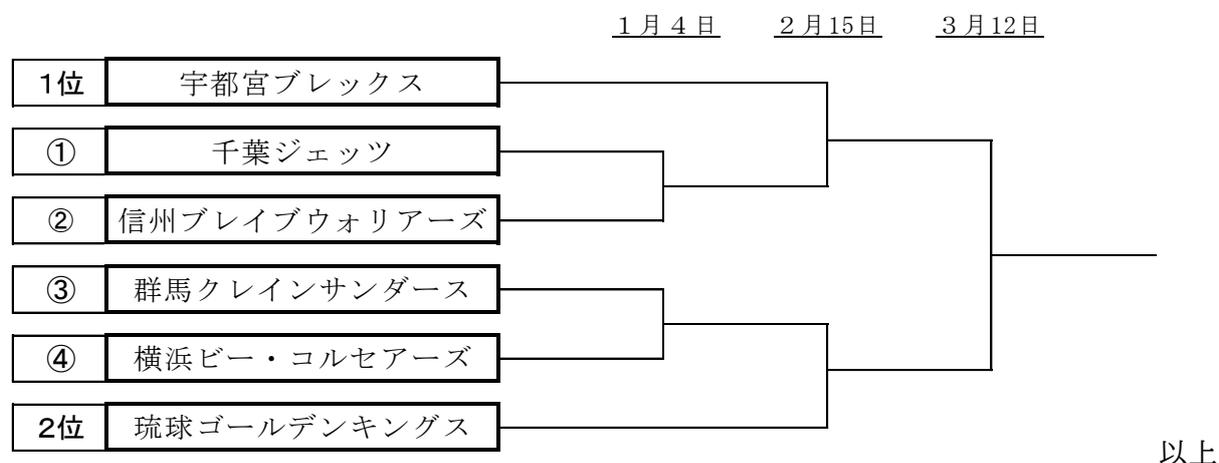
結果は下記の通りで、勝ち上がりクラブを太字アンダーラインで示す。

①	B1	<u>千葉ジェッツ</u>	106	—	74	名古屋ダイヤモンドドルフィンズ	B1
②	B1	アルバルク東京	72	—	80	<u>信州ブレイブウォリアーズ</u>	B1
③	B1	島根スサノオマジック	63	—	73	<u>群馬クレインサンダース</u>	B1
④	B1	<u>横浜ビー・コルセアーズ</u>	95	—	85	三遠ネオフェニックス	B1

<ファイナルラウンド>

ファイナルラウンドは4次ラウンドの各ブロックで勝ち進んだ4クラブに前年度の1位・2位クラブを加えた下記の組み合わせと日程により対戦する。

会場は、一部調整中とあるが、決勝戦は有明コロシアムで開催される。



第 89 回皇后杯・2 次ラウンドまでの結果

12 月 14 日～18 日 代々木第二体育館でのファイナルラウンドへ

[編集部]

2022 年度第 89 回皇后杯全日本バスケットボール選手権大会は、各都道府県代表が争う 1 次ラウンドから勝ち進んだ 13 チームに Wリーグ 14 チームが参加する 2 次ラウンドが終了した。その後、12 月 14 日(水)～18 日(日)には、2 次ラウンドから勝ち進んだ 8 チームにより、国立代々木競技場第二体育館でファイナルラウンドが開催される。

< 1 次ラウンド >

9 月 17 日(土)～19 日(月・祝)、東日本大会・中日本大会・西日本大会として各都道府県全国 47 チームが下記のように 3～4 チームの 13 ブロックに編成され実施された。

勝ち上がりチームを枠内太字で示す。(チームの配列は日本協会の組み合わせ表による)

東日本大会

東①	山梨県 山梨学院大学 千葉県 江戸川大学	群馬県 富士スバル	茨城県 筑波大学
東②	秋田県 秋田銀行 青森県 八戸学院大学	宮城県 仙台大学	神奈川県 アステム湘南ウィクトリアス
東③	東京都 東京医療保険大学 埼玉県 メディシオ	福島県 遊籠倶楽部	北海道 札幌大学
東④	山形県 山形銀行	栃木県 白鷗大学	岩手県 盛岡白百合学園高校

中日本大会

中①	福井県 県立足羽高校 新潟県 新潟医療福祉大学	京都府 立命館大学	富山県 R m
中②	奈良県 奈良学園大学 石川県 北陸大学	三重県 Reveize	大阪府 大阪体育大学
中③	和歌山県 紀陽銀行ハートビーツ 長野県 Signpost	愛知県 名古屋学院大学	岐阜県 県立岐阜商業高校
中④	兵庫県 武庫川女子大学	滋賀県 滋賀銀行 LakeVenus	静岡県 浜松開誠館高校

西日本大会

西①	鹿児島県 鹿屋体育大学 広島県 広島大学	香川県 TOSFIVE	岡山県 倉敷翠松高校
西②	宮崎県 県立小林高校 佐賀県 ひらまつ病院	島根県 Glanz	長崎県 ストレッチ
西③	沖縄県 すこやか薬局	熊本県 鶴屋百貨店	高知県 県立岡豊高校
西④	山口県 日立笠戸	鳥取県 鳥取城北高校	大分県 大分高校
西⑤	愛媛県 今治オレンジブロッサム	福岡県 日本経済大学	徳島県 JOIN

<2次ラウンド>

2次ラウンドは、12月3日・4日、1次ラウンドの各ブロックで勝ち進んだ13チームに、Wリーグ14チームを加えた27チームが、下記のように3～4チームの8ブロックに編成され、3会場に分かれて開催された。結果は下記の通りで、勝ち上がりチームを枠内太字で示す。
(チームの配列は日本協会の組合せ表による)

①	W	* (新潟アルビレックス)	東③	東京医療保険大学	W	** (シャンソン化粧品)
②	W	§ (アランマーレ)	東④	白鷗大学	W	デンソー アイリス
③	東②	秋田銀行	東①	筑波大学	W	富士通 レッドウェーブ
④	W	姫路イーグレッツ	中④	武庫川女子大学	W	§§ (トヨタ紡織)
	中③	紀陽銀行ハートビーツ				
⑤	W	東京羽田ヴィッキーズ	中②	大阪体育大学	W	日立ハイテク クーガーズ
	中①	立命館大学				
⑥	W	三菱電機コアラーズ	西④	日立笠戸	W	山梨クイーンビーズ
	西⑤	日本経済大学				
⑦	W	アイシン ウィングス	西②	県立小林高校	W	ENEOS サンフラワーズ
⑧	西③	鶴屋百貨店	西①	倉敷翠松高校	W	△ (トヨタ自動車)

* : 新潟アルビレックスBBラビッツ

** : シャンソン化粧品 シャンソンVマジック

§ : プレステージ・インターナショナル アランマーレ

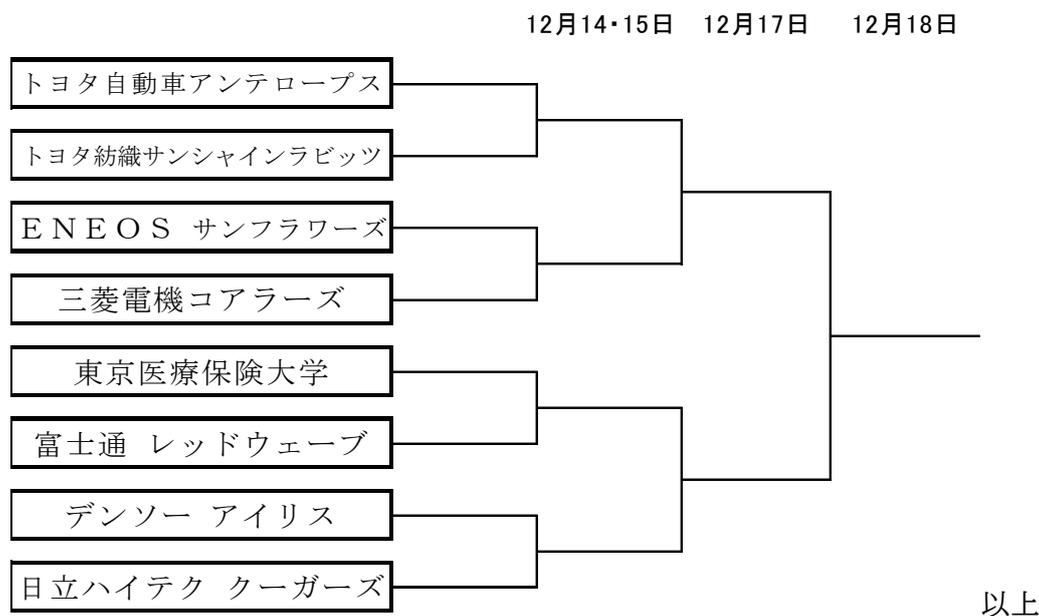
§§ : トヨタ紡織サンシャインラビッツ

△ : トヨタ自動車アンテロープス

東京都代表の東京医療保健大学が、第1クォーターで2点のビハインドを負ったが、第2クォーター以降でリードを続け、76-73でWリーグのシャンソン化粧品に勝利した快挙があった。東京医療保健大学は、この後、インカレを経てファイナルに臨む。

<ファイナルラウンド>

ファイナルラウンドは2次ラウンドの各ブロックで勝ち進んだ8チームが下記の組み合わせと日程により国立代々木競技場第二体育館で対戦する。



【先人の軌跡】

籠球・藍球・Basket Ball

－大正・昭和初期のころのバスケットボール－

[歴史部]

日本で「バスケットボール」の競技名は、大正、昭和初期のころには、「藍球」（らんきゅう）または「籠球」（ろうきゅう）と呼ばれていた。アメリカで、バスケットボール競技が始まった初期のころの名称は、「Basket」（かご）と「Ball」（ボール）がはなれて書かれている。

日本で当時行われていたバスケットボールがどのようなものか、以下の文章から想像することが出来る。「バスケット ボール」が「バスケットボール」に変更され、日本で国語訳が「籠球」（ろうきゅう）に統一されたのは全国の組織が設立されたときである。

・「随想 バスケットボールと私」 三橋喜久雄 （要約）

1888年（明21）鳥取師範の教諭を経て、1914年（大3）永井道明に招かれ東京高等師範助教授となる。デンマーク体操を導入し、1927年（昭2）三橋体育研究所を設立した。

バスケットボールが1891年に米国スプリングフィールドでネイスミスが始めたことは人のよく知るところであって彼が之を着想創案した動機や、その内容条件等は、私共体育研究専攻の者には相当意義があるが、ここには之を省く。

我が日本に入ってきたのが私の知る限りでは、1908年、即ち明治41年で一之は私が師範学校の4年生の時に米国遊戯の書物を見て実際にやったのだから間違いない—その当時はネイスミスが始めた状態そのまま屋内体育場の柱の高い所に屑籠の少し大きな竹籠を吊るしてやったものだ。（中略）

1890年ごろと云えば米国は新しく現代新スポーツとして一大飛躍を劃期（筆者注 画期）するときであった。この時に生まれたのがバスケットボールとヴァレーボールである。（中略） バスケットの道を自己の生命の道として生命をかけて楽しむ者がバスケットスポーツマンである。体育館の無かったときは、月の夜の屋外でもやれば、天井の低い体操場を借りて蠟燭を周囲に立て、梁の上をボールをくぐらせてシュートもした。

（バスケットボール No.12 .1952.）

・「大正のころ」 小林 豊（要約）



大正12年・大正15年極東選手権大会に出場、昭和2年東京帝国大学主将、昭和5年大日本籠球協会を設立し、専務理事を務める。

各位置の選手は、任務は判然と区別されていて、その戦法、競技規則はずいぶん違っていた。即ちフォワードは専ら得点する役目で、パスを受けては中距離或いは近距離でシュートし敵のゴール下に戻って、自分

のマークであるガードを防ぐということはなかった。従ってシュートの上手なのがフォワードの唯一の資格で中距離シュートは、今の選手より上手なものが数多くいた。

片手のシュートは、当時はすべて両手のシュートでまれにこれをやるものがあれば先輩から「軽業のようなことはやめろ。」と叱られた。南カルフォルニア大学からガードナー、アンダーソン両氏を招聘してコーチを受けた際、ポストプレイでセンターの片手フックシュートの有効なことを教えられてから皆が使いだしたのだから、片手シュートは昭和の時代からである。

ガードの役目は敵のフォワードのシュートを防ぐのが主で若し敵のパスをカットした時は、ドリブルまたはパスで速攻を行い、若しパスの出来ないときはジックリ球をまわすなどという事はせず、惜しげもなくロングシュートを投じた。従ってガードの資格は、防御の強い者で攻撃法としては専らロングシュートを練習していた。センターサークルあたりからポカポカ入れる選手がたくさんいた。

センターの役目は、攻防両方でこれだけは現在と同様にコート上を往復しパスも受ければシュートもしゴール下に飛び込み又防御もした。しかも得点后必ずセンタージャンプをしたので長身の体力のすぐれた者がなった。こんなような理由で、守備は大体3人か4人で5人防御や地域防御は未だ行われず攻撃は速攻一点張りであった。

大正9年の春、東京YMCAとシカゴ大学野球チームのバスケットボール試合があり籠球技術を見て驚嘆、72対0で敗退、センタージャンプ後あつという間に得点されて全く手の施しようがなかった。センターフォーメーションだったらしい。このことから考えてフォーメーションの存在を知らなかった。

・「昭和のころ」(要約)

大正14年頃春、極東大会出場チーム選抜試合の決勝戦で自分の属する東京クラブと早稲田大学が戸山学校のコートで争ったが、自分は、この時始めて地域防御に出会った。最初は勝手が違ってまごついたが、敵はただ前列に3人、後列に2人並んでいるだけで伸縮変形はないので、やがてその虚をついてこれを打ち破ることができた。

早稲田大学は新しい防御方法としてファイブメン、ツーラインのゾーンディフェンスを使いだした。従って攻撃法にも従来と異なった工夫が出てくるようになり、競技は自然に科学的となっていった。その後、数年して早稲田大学は地域防御を完成して天下に覇を称えた。(バスケットボール NO. 6・1949)

・「バスケットに桃籠」9月号 ばすけつとぼおる物語 松本幸雄

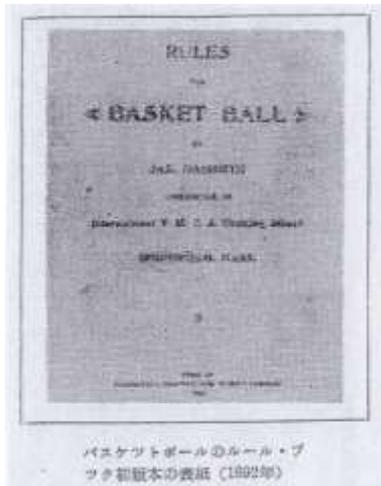
(ベースボールマガジン社「バレーボール&バスケットボール」1959年6月～)



ネイスミスがゴールを何にしようかと考えながらホールを降りて行ったとき、そこの建物の管理人をしているステビンス氏に出会った。そこでかれは43センチ平方の箱があるんだがといったところしばらく考えてからいった。「箱はありませんが、何かそんなものを捜してみましよう。下の倉庫に古い桃籠(ももかご)が二つあったように思いますが、それではお役にたちませんでしょうか」、2個の木製のバスケットを両脇にかかえてやってきた。このバスケットの口は丸く、底の方が口よりも幾分小さくなっていた。

・「バスケット ボール」と命名 バスケットとボール

バスケットボールは、1891年（明治24）12月21日に、J. ネイスミスによってアメリカ・マサチューセッツ州スプリングフィールドの当時のインターナショナルYMCAトレーニングスクールで創案された。翌年の1892年1月に発行された学校新聞に「新しいゲーム」という見出しで規則が掲載された。これが印刷された最初の規則であった。クリスマス休暇からもどったクラスのリーダーのフランク・マハンはネイスミスのところにやってきて「新しいゲーム」として紹介されたこのゲームに名前がないので故郷で説明するときに困った。何と呼べばよいのかとたずねにきた。そして、「ネイスミス・ゲーム」と呼ぶことにしようと提案した。ネイスミスは自分の名前が入っているの、これを一笑に付しそのような名目をつけるとせっかくの面白いゲームそのものを殺してしまうことになる」と答えた。そこでマハンは「ではバスケットボールと呼んではだめでしょうか」「バスケットがある。そしてボールがある。良い名前だね、それがよい」と答え、こうして



バスケット ボールという名称が生まれた。

・「BASKET BALL」から「BASKETBALL」

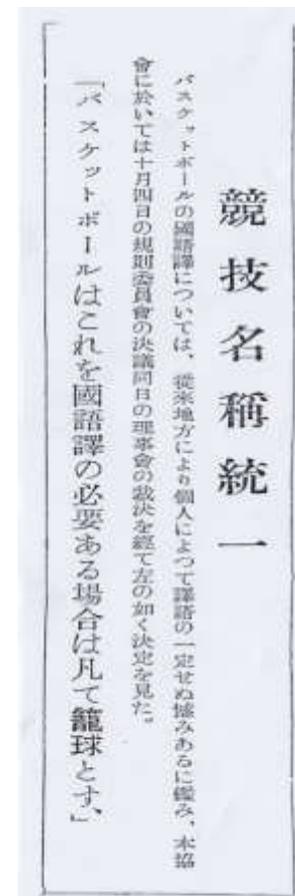
当初、バスケットボールは、一つの単語ではなかった。バスケットのルールブックの初版本は「BASKET BALL」と書かれていて、BASKET と BALL がそれぞれ独立した単語で表記され、1925年頃までは一つの単語ではなかった。

・「籠球」第2集（1931） 競技名称統一

バスケットボールの国語訳については、従来地方により個人によって訳語の一定せぬ悩みあるに鑑み、本協会に於いては10月4日の規則委員会の決議同日の理事会の採決を経て左の如く決定を見た。「バスケットボールはこれを国語訳の必要ある場合は凡て籠球（ろうきゅう）とす」

・大日本体育協会史 昭和6年（筆者注1931）

バスケットボールの名称について、従来名古屋を境として西は籃球（らんきゅう）といい、東は籠球（ろうきゅう）といいその訳語不統一にして不便な点が少なりし状態であったのを統一せんとして、創立以来心がけていたが、種々研究の結果初期より我邦に於いて使い慣れている「籠球」を以って正しい訳語とすることに決定し、次の如く決定した。「バスケットボールはこれを国語訳の必要ある場合は凡て籠球とす」そして此訳語統一は1年を出でずして完全に行われ協会の統制力を証明する一例として当事者を喜ばした。



・「籠と藍と 紫の人」(バスケットボール・10月号)

薬師寺尊正 発行

名古屋以東は、籠という。面白いことは日本の石炭の分布が名古屋までは、北海道の石炭が来て、以西は九州の石炭を使っている。籠で運ばれたり籃で持ってきたりしているからだろう。バスケットボールを、籠球と云っても、籃球と云っても、構わぬが、どちらかに決めないと、不便なこと夥しい。名前のことだし、字義に拘泥する必要もないので、東でも西でも「どちらでも構わぬ」云い乍ら、「それなら、お前たちの方を引っ込めろ」と云われるとウンとは云うまい。桃籠とも桃籃とも、ドチラでも良いと、辞典は教え、籠は鳥籠の様に口のないもの、籃は浅いものだと思口を云っている。それなら一層(筆者注 いっそ)竹*(竹冠りに揺)としたらと云う人もいるが様々他の字を問題が新しくなって不賛成だ。一中略一又、この籠と籃が名古屋以東では籠で、以西では籃も妙だが大正13、14年位迄は、たいてい籠球と云っていたもので、籃球と云う字が使われ出したので、日本のバスケットボール史では比較的新しいことと思う。この籃の字が使われ出したことについては、或る東西に誇る大新聞の運動記者諸君の一人が中国ではバスケットボールを籃球(らんきゅう)と云っているが、漢字では本家の事だから大方籃の字がいいんだらう。以下略

・最後に、

競技の原則は変わらないが、大正・昭和初期のころと現代のバスケットボールは、「ルール」「考え方」も大きく異なっていた。時を経て、「バスケットボール」は発展し、時代とともに大きく変化した。

以上



関東大学新リーグ戦（新連盟）の発足

終戦後の学制改革に伴う

[歴史部]

1949年（昭24）新制大学の発足に伴い旧制高校、旧制専門学校、師範大学などが戦後の学制改革（1946年）に依り、新制大学に包括され、旧制単科大学も多くが新制の総合大学に包括された。

新制大学のチームは、旧連盟（戦前から続く関東大学学生連盟）への加盟を断られ、関東地域のチームだけでなく、新潟、長野など地方の大学チームなどもまとめ、組織・役員・体育館の手配・審判員の育成などすべてゼロからの新連盟のスタートであった。

・1949年（昭24）トーナメント大会を開催

1949年（昭24）11月ごろでしたか日本協会の当時東京高等師範の青井水月さんが来られて「新制大学のトーナメントをやろう」という誘いがあった。旧制高校と並列しているところは、新旧一緒に出ても良いということで参加させていただいた。

結果として、学習院が優勝し、青山学院が準優勝したが、新制大学としてユニフォームなど体をなしていたのは、青山学院だけだったような気がする。

（武蔵大学・梅戸 仁・関東大学バスケットボール80年史/2005.10）

・関東大学新リーグ戦スタート

1950年（昭25）11月4日～12月3日

第1回 関東大学バスケットボール新リーグ戦

主 催：関東大学バスケットボール連盟

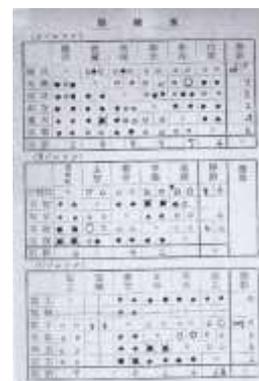
後 援：関東バスケットボール協会



- ・「第1回 関東大学バスケットボール新リーグ戦挨拶」 新リーグ委員長 梅戸 仁
学生改革に依り新制度の大学が沢山出来、従ってスポーツ界も今迄高専大会などというものが総て大学の試合になりましたことは周知の事であります。

其処で、私達新制大学の者は新しい制度の下に各種のスポーツ活動を行うようになりました。昨24年暮れに関東新制大学（含旧制高専）トーナメントが行われ、何も無い所に一つの基盤が生まれ、それが本年度は春季トーナメントとして大学のみによって私達だけの力で行いました。然るに、秋季リーグ戦を企画するに当たり協会から申し入れもあり、遠隔の地にある大学も何とか参加したいというので、関東バスケットボール協会所属の地方、遠くは、新潟、長野に迄連絡を致し完璧を期したのであります。（以下略）

リーグ戦の結果により、次年度から上位、中位、下位2チームでそれぞれ1部、2部、3部に分けることを明記している。



・第1回 関東大学バスケットボール新リーグ戦の結果

リーグ戦の結果、Aブロック：横浜国大、Bブロック：学習院大、Cブロック：青山学院が優勝、三校で決勝リーグを行い、青山学院が優勝。2位は、学習院、3位は、横浜国大、その結果、青山学院、学習院の上位2チームが、全日本選手権への関東予選の出場権を得た。

・新リーグ戦（新連盟）運営の苦勞（ゼロからのスタート）

戦後の学制改革に依り新制大学が発足し、発足時1、2年生のみのチームと、3年次までのチームがあった。戦前から存続する関東大学リーグ（旧連盟）に加盟を申し込んだが断られ、新たに「新連盟」を組織し発足した。

従って、旧連盟が使用していた当時の国民体育館（神田）などは使用することはできず、審判員についても旧リーグと日程が重なり手配できず、畑龍雄氏（審判・武蔵大）を招き審判講習会を行い未熟ながら学生の手によって行うことになった。

・1953年（昭28）年度 新連盟リーグ戦で三人制審判を試験的に採用 新連盟委員長 小島哲郎

1952年（昭27）秋、アメリカのギル・マクドナルド氏（アメリカ・ビッグテン・カンファレンス所属）が来日し、羽田の在日米軍を対象に審判講習会を行った。この講習会に小出浩（早大OB）が参加、講習会終了後に「三人制審判」について話し合った。

また、同年10月26日、神奈川県藤沢市において神奈川県協会試案によって試合が行われた。三人制審判については、畑龍雄氏も関心をもち試案の話し合いに加わり、いろいろ研究がなされた。神奈川県協会、畑龍雄氏により試験的に行われていたが、連続的に行ってみる必要がありはしないか、さらに新進審判員の要請に貢献できるのではないかという観点から貴重な試験台に登った。

ギル・マクドナルド氏の試案、畑龍雄氏の試案、小出氏の試案などがあった。各々特徴はあるが、傾向として、審判の移動について、ギル・マクドナルド氏の試案は、割合に位置を変えないもの、畑氏、小出氏の考え方は、2人制審判の動きを取り入れた合理的なものであった。

1953年のリーグ戦に「3人制審判」を試験的に採用し、新連盟の審判は、高山、三宅氏のほかは新学連の役員が担当したため、人数が不足したので毎試合3人の審判を割り当てることに無理があった。そのため1シーズンの試験的実施に留まってしまった。しかし、我が国の公式戦で初めて「3人制審判」を試合に採用したことは、その後に大きく寄与したと思う。4部制であったが、1部、2部のみに試験的に実施し、利点、欠点、審判法、整理方法などを報告書としてまとめている。

・1966年（昭41）旧連盟と新連盟が合併し新たな連盟がスタート

新連盟の加盟校が徐々に増加するに伴い、日体大、芝浦工大などのチームの活躍もあり、全体の実力もアップし、1966年には、旧連盟と合併した関東地域を包括する新たな関東大学バスケットボール連盟がスタートした。

合併時には、旧連盟が1部・2部12チームに比較し、新連盟は、47チームに増加し全体で59チームが所属する組織になった。

・新連盟15年の歴史

戦後スタートした新制大学で組織された新連盟は、徐々に加盟校を増加させるとともに、その実力も備えていった。

日本協会の活動にも積極的に協力し、連盟の組織を充実させることに地道に努力した結果、旧連盟と合併し、名実ともに関東大学バスケットボール連盟の一員となった。

最後に

戦後誕生した新制大学の選手たちは、戦前から続く旧連盟への加盟を断られ、ゼロからスタート、新連盟の加盟校の役員・選手の活動の努力が15年を経て大きく結実したことになる。新連盟でプレイを経験した選手たちは、現在75歳以上となる。

以上

リングに向かって“跳べ”10年後の子供達

板橋区チーム「徳丸モンキーズ」

[普及部]

東京都板橋区を拠点に活躍をしている、U12カテゴリーのバスケットチーム“徳丸モンキーズ”を杉田拓馬代表から紹介していただく。

“徳丸モンキーズ”は2011年からは現在男子ヘッドコーチを務める杉田代表が指導しているが、取材当日は男子の練習日で1年生から6年生の選手がコート内で元気に活動を行っていた。高学年が低学年を教える姿と“裸足”で頑張る姿が印象的であった。

“徳丸モンキーズ”を紹介する

代表 杉田拓馬

[チーム発足]

“徳丸モンキーズ”はシドニーオリンピックが行われた2000年12月に中学校のバスケットボール部顧問の先生方が立ち上げたバスケットボールチームである。先生方の異動もあり、チームは保護者主体で運営する時期やOB・OGが指導にあたる時期などを経て現在に至っている。



肝試しイベントでの杉田代表

[活動理念]

チームの活動理念は「バスケ人間育成計画!(^^)!!」である。その真意は、「選手にバスケットボールを大好きになつてもらう」「保護者にもバスケットボールを大好きになつてもらう」そしていずれは、選手として、審判として、指導者としてなど様々な形でバスケットボールに携わる人間を増やしていくことにあるという。

[指導方針]

また、指導方針は「まずは楽しく!」である。ただ、「スポーツの楽しさは全力で競い合うことにある」という。特に トランジションの多いバスケットボールにおいては「全力で走ること」「リバウンドやルーズボールへの執着心」「抜かれてもあきらめないこと」など、昨今のスキル指導が中心の時代に、地道に泥臭く取り組んでいる。また、元気な体を作っていくために、練習の前半は“裸足”での トレーニングを行っている。

試合でも選手には全力で Challengeすることを求め、その結果、失敗しても全然大丈夫と選手に伝えている。その代わりに、Challengeしないことやコート内であきらめることには厳しく指導する方針である。また、応援していただいている保護者の皆様に感動を与える試合が出来れば勝ち負けにはこだわらないという。とはいうものの、今年度の「スポーツ少年団競技別交流大会」では3年生を起用する厳しいメンバー構成の中で大会ベスト8に進出する活躍を見せた。

〔様々な活動〕

これまでも月に一回は「305バスケットボール」と称して、小学生から大人まで一緒に楽しむ練習会を企画していたが、今年度からはOBを中心に地域の中学生のための練習会“TKM-U15”の活動を開始し、約20名の選手と週末の日曜日の夜に練習を行っている。

また、チーム練習以外にも、「バーベキュー大会」や「肝試し大会」、「海まで歩こう35km」、「区連盟が行うスーパーシニア大会でのTOの手伝い」、「地域運動会」や「ロードレース大会」など小学生の健全育成に取り組んでいる一面もある。

〔海まで歩こう35km〕



〔スーパーシニアお手伝い〕



〔裸足トレーニング〕





〔10年後の子供達へ〕

今の小学生はインターネットの環境を通じて、世界最高峰のプレイや指導方法などを直接触れることができる環境となっている。また、国内においてもトップチームのアンダーカテゴリーや様々なクラブチームやスクールなど自分がプレイする場所を選択できる時代である。

このような環境の中で、徳丸モンキーズはバスケットボールの強豪チームではなく、選手、指導者、保護者、地域の方々が一体となったチームを目指している。

モンキーズを卒団した選手たちが「バスケ人間」として次の「バスケ人間」を育てていくために帰ってくる場所。そんな環境を守っていきたい。

以上

今年最高のプレイを ★

第 13 回シニアバスケットボール交歓大会 in YOYOGI

[普及部]

秋晴れの 10 月 27・28 日の 2 日間、代々木第二体育館で「シニアバスケットボール交歓大会」を開催しました。2020 年東京・オリンピックの開催とコロナ禍の影響などで 2 度の開催中止もあり、新装なった代々木第二体育館での開催は、2019 年以来 4 年ぶりの開催となります。60 代・70 代のシニア世代のバスケット選手たちには一番思いのある体育館であり、1964 年東京・オリンピック開催の会場となった 58 年を経た歴史のある会場です。

参加チームの代表者の方がたには、大会開催の可否の判断や参加の確認などについてご面倒をおかけし、主催者（振興会）としては大会の開催にむけて事業者側（代々木体育館）と会場の視察・面談を行い、コロナ禍の中、何度も打合せを行いました。最終的に、男子チーム 7 チーム、女子チーム 2 チームにご参加いただき、「第 13 回シニアバスケットボール交歓大会」を開催することができました。参加チームの皆さんには心から感謝申し上げます。

当日の代々木のコートには、選手の皆さんが日ごろの練習の成果を存分に発揮し、好プレイや珍プレイにスタンドで観戦している皆さんから大きな声援もあり、やはり代々木第二体育館ならではの特別の雰囲気がありました。

27 日夕刻は、渋谷センター街にあるレストラン会場「ヴェントゥーノ」で懇親会を開催、今回は不参加でしたが「岩手マスターズ」の代表者「油井康」さんの「スポーツグランプリ（日本スポーツ協会の表彰制度）」受賞の報告、「1964 東京オリンピックバスケットボール技術映像」などをスクリーンで紹介しました。懇親会に参加していただいた東京オリンピック選手の諸山さんの活躍の雄姿も映像の中に発見しました。恒例の懇親会は、いつも通りに会話も盛り上がり、大いにチーム間の交歓を行いました。

翌日の 28 日は、前日の疲れも見せず体調十分、2 日目の多くの選手たちのプレイは、全体的に前日より、身体がこなれているように見えました。しかし、徐々に疲れも見え、3 試合目になるとさすが足のもつれで転んでしまうプレイも目立ちました（コートの床のストップが良く効くこともありました）。何とか大きなけがもなく、皆さんのご協力によって予定通り 18 時前にすべての試合を無事終了することができました。

来年も代々木で

「第 14 回シニアバスケットボール交歓大会 IN YOYOGI」を開催予定

期日： 2023 年 11 月 15 日（水）・16 日（木） 2 日間

場所： 代々木第二体育館

コロナ禍の影響のない「安全・安心な環境」であることを祈念し、多くの元気なシニアチームが代々木に集まることを期待します。

交歓大会参加者感想文

シルバーキッズレディース名古屋 松岡 英子



シニア交歓大会“IN YOYOGI”には2014年、第7回大会に名古屋と交流のあった神戸シルバーキッズレディースの一員として初参加しました。

代々木第二体育館はバスケットボールの“聖地”、ここでプレーすることはあこがれでした。(現役時代は、ここでの大会はなかった)

初めてコートに降りた時の感動、今でも鮮明に覚えています。以後、毎年参加させていただいています。また、夜の懇親会では往年の名選手と交流が出来、夢のようでした。2020年、2021年とコロナにより大会が出来なくなり、また、第1回大会より参加していた全国家庭婦人ゴールデンシニア大会は今年で終了。淋しい思いをしていました。

そんな中、バスケットボール振興会の皆様のご尽力によりこの大会が続けられること、本当にうれしく、これからも宜しく願います。

なお、私たち名古屋のメンバーは、今まで神戸シルバーキッズレディースの一員として参加させていただいていましたが、本年度単独でチームを結成することが出来、シルバーキッズレディース名古屋として出場しました。来年度からは、新しいチームとして参加する予定です。宜しく願います。――

シルバーキッズレディース(SKL) 松田 陽子

2022年10月27日新大阪からの新幹線は品川に到着、山手線に乗り換え、原宿一路代々木第二体育館へ。3年振りの13回シニア交歓大会開催！！

当初試合相手がなく辞退したものの、名古屋の松岡さんから絶対オリンピック後の代々木のコートに立ちたい！！ゲームがやりたい！！の一言で参加を決意！！

名古屋対神戸のメンバーで2戦！！

会場に入るや素晴らしいフリースローレーンのレッド！！が目に入り、スカットした肌色のコート外の黒で引き締め、床ごこ地、ゴールのバックボード・シュートごこ地、最高でした！！

毎回参加するバスケ仲間に再会、小学生の様に嬉声をあげ、ゲーム、懇親会を楽しみました。

我がチーム SKL は東京組も有力選手が揃い、とても心強いです。又来年も体力、筋力、金力を貯めて出場できます様に頑張ってお参ります！！――





コロナ禍での中止やオリンピックを控えて改装のため使えなかった代々木第二体育館で久しぶりにバスケットボールを楽しみました。いろいろ準備頂いた振興会の皆様には感謝いたします。

体育館の床が張り替えられたのかとても明るくなった印象でした。懇親会では参加している各チームのメンバーとも懐かしく旧交を温めることが出来ました。シルバーキッズはこの大会の初期から参加していますが、毎年参加していた先輩方が故人になられたり引退されたりして少しずつメンバーが変わっており、他のチームも同様かと思いますが寂しく感じさせられるところもありました。

今回はウィークデー開催ということもあり 70 歳以上の部門ではシルバーキッズが最多の人数を占め、我がチームのメンバーの高齢化の進行が顕著であり若手の補充策を強化することが必要と認識いたしました。

来年もまだまだ元気なオーバー70 歳を中心にしつつも 60 歳の若手(?)の強化をして参加したいと思っています。乞うご期待。――

70 歳クラスに参加して

埼玉 鷺澤 秀夫

コロナ禍の為二年振りの代々木大会に青春時代以来の心が騒ぐ、世間の暗さに反発、2022 年 10 月 27～28 日の東京は晴天に恵まれた。今年の使用会場は 1964 年東京オリンピック大会で竣工され昨年改装されたばかりの代々木第二体育館、色鮮やかなバスケットコート・大きな見やすいスコアボード・全観客席のソフトな座り心地の椅子等々、バスケット熟年には竜宮御殿を感じさせる。さて本年のゲームは男子 8 チーム・女子 2 チームの参加でした。我々 70 歳代の男女総勢 42 名は紅白に別れ二日間を各 1 ゲームを楽しみました。A チームは横浜・埼玉・SOS の 21 名、B チームは、Coki-Coki・駄馬・SK の 21 名で、初日は A=28 対 25=B での接戦ゲーム、二日目は A=33 対 20=B と両日 A チームが勝利しましたが、各処に往年プレーが見られ思い出に残る大会になりました。来年度は単独の 70 歳クラスを企画して戴ければ幸いです。

―<ひとり言：会場は 2 会場でも実現して～>―

3年ぶりとなる今回の大会は2020年から参加を希望していた、福岡の田中さん、旭川の伊藤さんと山梨の飯野さんが加わり、ビー・シーガルズのメンバーは新しく藤田、斎藤、佐藤、滝沢、下村、沼田、岡村が初参加となり、3年目となるメンバーの入れ替わりに驚きます。

今年も2019年以来ですが、香港から安力川さんが参加してくれました。

代々木大会では、全員出場が目的なのでチーム編成をAチーム（ビー・シーガルズ）、Bチーム（過去の海外遠征者・サムライ）と分け、Aは1、3Q出場、Bは2、4Q出場と決めて臨みました。色々な事情がありベストのメンバー編成とはいきませんでした。代々木第二体育館での試合を満喫できました。



今年、ねんりんピックが神奈川開催と聞いていたので、チーム、個人ともにJBA登録をしたおかげで、第20回全国ゴールデンシニアバスケットボール大会「ねんりんピックかながわ2022協賛イベント」（神奈川県平塚市9/10、11開催）に参加、第2回日本社会人バスケットボール連盟オーバーエイジフレンドリー60（11/5、6 新潟県上越市）に参加、又神奈川県社会人バスケットボール連盟オーバーエイジフレンドリー60リーグ戦（12月～1月 神奈川県内）に参加。八幡カップ（今年度中止）、横浜カップ（福岡県久留米市2/17～19）など年間の試合数が約16試合と過去最高となりました。

チームの平均年齢が、今年は70歳となっていますので、オーバーエイジ70大会の開催を望みます。大会参加の意欲は衰えていませんので体の手入れ、月2～3回の練習は続けて行きたいと思います。

最後になりますが、代々木大会の開催にあたり、NPO法人日本バスケットボール振興会、アクティブフープほか関係者の皆様に心より感謝申し上げます。――

駄馬 熱田 学



リニューアルで見違えるようになった憧れの「バスケ聖地/代々木第二体育館」でバスケができました。ともかくいいのです。また、大会パンフレットが素晴らしいのです。コスト、情報のパフォーマンスが最高でA3、1枚表裏にすべての情報が入っていて各自が半分に折るとA4、4ページになります。表紙には「今年最高のプレイを」の文字もカッコいいのです。70歳以上が半数のチームも多くなりいよいよ70歳以上の大会が本格的に開催されそうですね。

11月の初めに阿部さんから試合の感想文を書いてほしいとの依頼を受けました。駄馬は創立以来50数年たっている伝統ある

チームであり、参加して数年の私より長く在籍している人のほうがいいのではないかと考えていましたが、日頃からお世話になっている阿部さんからのご依頼でもありお引き受けすることにしました。

以前、在籍していた横浜ビー・シーガールズ時代にも感想文を書かせていただきました。山本監督、三浦HCのもと全員参加で真剣勝負、楽しむことをモットーにバスケができました。初戦の試合開始前、ベンチ前で阿部さんか先日、望月さんが亡くなられたので「全員で黙祷！」から始まりました。私は望月さんを存じ上げないのでLINEで問い合わせたら、大沼さんから次のような返答が来ました。<<<「望月さん」(新宿高校朝陽会会長、早稲田大卒)は駄馬GSにとって恩人です。今から20年程前、埼玉のシニアリーグで前川さんの東京マルダッシュと云うチームが渡辺時雄さん、増井さん、川戸さんたちのチームと対戦しておりました。今の関東GSリーグの前身です。望月さんの計らいで東京マルダッシュの枠を駄馬が譲り受け参加することができるようになりました。今、駄馬GSが各シニアリーグに参加できているのも望月さんのおかげかも知れません。謹んでご冥福をお祈りいたします。(合掌)>>>

日ごろ会うことのできない方々や7月スペインで開催されたFIMB世界大会のメンバーとの再会など毎年この大会は同窓会的な感じでもあります。久しぶりの試合に参加されました片山さんは毎年7月に越後湯沢で開催している「山本杯/関東・新潟BB交流会」の企画をされていますが、ここ数年コロナで中止になっているのは残念です。試合、練習などの連絡、藤田さんや都合で参加出来なかった沖宗さんからLINEで来ます。その方々やほかの方々の運営により駄馬バスケが成り立っている事も忘れずにとっています。メンバーは数名の方が新加入し色々な経験を持つ方の構成になっています。関東GS公式戦で最高年齢得点記録を持つ山本さん、現役時代は日本リーグで活躍された三浦さん、1試合46点記録を持つスーパースター北村さんや、バスケ以外にプロの画家、パイロット経験者などほかの特技を持った方もいます。駄馬の練習は月に8~10回、土日祭日、午前9~12、渋谷、中野、新宿などの公共施設を借り若手、GSの約20名前後で行っています。LINEで過去の内容をみてみました。コロナは駄馬メンバーのやる気を削いでいることが分かります。また、バスケの持論を曲げなかった伴野さんがガンで亡くなった事も思い出させてくれます。そのような出来事や駄馬メンバーのことを思い出すことも必要なかと思いました。私事でスママセンが、SOSのメンバーだった「奥山さんの追悼LIVE」を来年にはしたいと思っています。2年前、突然お亡くなりになりびっくりしました。試合では背格好も同じで攻守ともに相手でした。飲み会であっているうちに音楽が好きだということが分かり私のオヤジバンドで裕次郎大フアンの諸山さん、バスケ仲間と「生カラオケLIVE」を企画し、そのMCをやっていただきました。今でも彼の流ちょうでユーモアあふれるMCと歌が流れてきます。横浜ビー・シーガールズの狩野さんのアルトサクソも盛り上げてくれます。最近もう一つの楽しみができました。地元湘南(藤沢市、茅ヶ崎市、寒川町)で「湘南ユナイテッド」というチームがB3に参戦、当初は高校生に負け話題にもなりましたがようやく首位を走っていた鹿児島、岡山にも勝てるようになりました。時間がある限り試合に行き応援するのが楽しみです。

毎回この交歓会で年齢的に異常なくらい元気な方がいて元気付けられます。その元気をもらいながら、そろそろも自覚しつつ、残りの時間を、バスケを友に色々な人と出会い語らいながら楽しんでいきたいと思っています。

「駄馬クラブ報」みたいになり取り留めのない内容になりましたがお許し下さい。

追記／感想文を書き終えた後に、ご家庭の都合で練習、試合の参加がかなわない大沼さんからLINEが届きました。

<<<駄馬は1969年（私が高校1年の頃）創立しました。途中、メンバーも病気や仕事で来られない方、復帰した方、残念ながら鬼籍に入られた方、そして新規に参加し駄馬を盛り上げ協力してくれた方。その様な方々に支えられ今日が有るのだと思います。来年2023年は創立54年に当たります。世界的パンデミックコロナ禍で、50周年記念祭を出来なかったのは断腸の思いであります。しかし過ぎ去った時を戻すことは出来ない。

50周年に囚われず、再来年（2024年）に55周年記念行事がドか〜ん🍷と出来たらいいなと思っております。55（go-go）！駄馬>>>——

J.J 和歌山 上田 勝也



初めに大会の企画運営に携わった関係者の皆様に感謝致します。

バスケットをしている者にとって代々木第二体育館は聖地であり、憧れの場所です。そこで試合が出来る喜びで興奮しました。

メンバーは冷静に無理せず怪我の無いようにと気を付けていました。二日目の筋肉痛は半端なく立ち直るまでに時間が掛かりましたが、楽しい二日間でした。70才を越え80才前後の方もボールを追いかける姿は学生の頃と同じでキラキラしていました。まだ走れるんですね！！ビックリでした。我々も1日でも長くバスケットが出来るよう精進したいと思います。

懇親会では最初「立食は辛かった」の声が多かったように思います。

ただ懇親会なのに和歌山だけ固まって食事をしたのは反省する所です。

この度は振興会の皆様には大変お世話になりありがとうございました。

また皆様にお会いするのを楽しみにしております。——

以上





バスケットボール行脚

須田 武志

はじめに

私は、38年間、高校で教員をし、あわせてバスケットボールを指導してきました。早いもので、定年退職をして20年以上が経ちました。最近、コロナの影響で、各地での大会に制限が加わって、殆どの大会の見学が出来なくなっています。しかし、最近、コロナも少し落ち着いてきた様子なので、バスケットボールの各種大会を見学に出かけようと思い立ちました。

その1

第74回 全国高等学校男女バスケットボール選手権大会（インターハイ）

日程 2021（令和3）年7月24～8月15日

開催地 新潟県 男子 長岡市、女子 新潟市

残念ながらコロナの影響のため、チーム関係者以外は見学不可で、見学せずでした。

そこで、60年近くまえのインターハイと現在のインターハイを比較してみることにしました。

出場校の変化

私が大学を卒業した1年目（1963年・昭和38年8月）に、新潟県三条市で開催された第16回インターハイに高校生を連れて初参加。今から58年前です。その時の開催地も新潟県でした。その年のプログラムが手元にあるので、その年のプログラムと昨年のインターハイのプログラムを比較してみることにしました。

1963（昭和38）年8月1日～6日 新潟県三条市

男子 参加62校（公立47校、私立15校）

ベスト4 ①県立三条高校 ②中大附属高校
③県立山城高校 ④県立松江工業高校

優勝校のチーム15人の平均身長 177.7 cm

女子 参加62校（公立35校、私立27校）

ベスト4 ①名古屋女子商業高校 ②宇都宮女子商業高校
③安城短大付属高校 ④滝野川高校

優勝校のチーム15人の平均身長 158.4 cm

あれから、58年後

2021（令和3）年7月24日～8月15日

男子 参加53校（公立10校、私立43校）

ベスト4 ①中部大第一高校 ②帝京長岡高校
③福岡大附属大濠高校 ③仙台大明成高校

優勝校のチーム12人の平均身長 187.7 cm

会員だより

女子 参加 51 校（公立 19 校、私立 32 校）

ベスト4 ①桜花学園高校 ②大阪薫英女学院高校

③岐阜女子付属高校 ④京都精華学園高校

優勝校のチーム 12 人の平均身長 174.3 cm

最近の高校のバスケットボール界を見ていると、外国、とりわけアフリカからの留学生が男女とも多い。特に強いチームには複数人が在籍している。先日の新聞（京都新聞）にも掲載されていましたが、この現象はバスケットボールの男女に限らず、陸上やサッカーの種目においても見られる現象です。一番多いのがバスケットボールです。新聞によると生徒がケガ等で使い物にならなくなると退学させられて、帰国させられるという例が多くあるようです。

58 年前と比較して、現在のインターハイ出場校や上位チームが公立の高校から私立の高校へと大きく変化してきています。

その2

第 73 回 全日本大学バスケットボール選手権大会（インカレ）

2021 年 12 月 6 日 東京

夏のインターハイでは、コロナの影響で見学に行けなかったけれども全日本大学バスケットボール選手権大会（インカレ）では、入場料さえ払えば無条件で試合の見学が出来るというので、大田区総合体育館と代々木第二体育館に見学に行きました。丁度、関東リーグ戦 2 位の日本大学と 6 位の筑波大学が試合をしていました。秋の関東リーグ戦の結果から、日本大学が順当に勝利を収めるだろうと思いながら試合をみていたら、後半を終わった時点で同点。オーバータイムである。そして、第 1 オーバータイムが終了しても、再び、同点。第 2 オーバータイムに入って、両チームフラフラの状態です。どちらのチームにも勝ってほしい内容のある試合でした。高い入場料を払って見るだけの価値はありました。

その3

第 52 回 全国高等学校バスケットボール選手権大会（ウインターカップ）

2021 年（令和 3）年 12 月 23～29 日 東京体育館

3 月開催の「全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会」が 1998（昭和 63）年 12 月から「ウインターカップ」という名称で実施され、今日に至っています。この大会は、1988 年には、3 月と 12 月に 2 度に亘って開催されました。

私事ですが、第 1 回全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会に近畿地区代表（近畿から 2 校出場）で優勝して参加。期日は、1971（昭和 46）年 3 月 18～21 日で、東京代々木第二体育館と駒沢屋内球技場で実施。参加チーム数は全国で男女各 16 チームで、いきなり全国大会の 3 回戦から試合をする感じでした。この全国大会は、実施が急に決定した大会（私の思い過ごしかな？）であったため、春休みに入る直前の 3 学期に実施

会員だより

されました。私の勤務していた学校の学年末考査は、他校より遅く実施されるため、大会が学年末考査と重なり、練習不足の状態のまま参加。1回戦は、50対35のロースコアでなんとか勝ちました。ベスト8です。次の準決勝では、前半は同点だったものの、後半は息切れや体力不足で引き離され敗退。残念ながらベスト4に入れませんでした。今から思えば、試験中といえども練習しておけばよかったと残念に思っています。

第1回全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会の参加チーム

日程 1971年3月18～21日

男子 16校（公立11校、私立5校）

ベスト4 ①明大附属中野高校 ②京北高校
③県立能代工業高校 ④相工大付属高校

優勝校チーム12人の平均身長 178.8cm （200cm 北原氏在籍）

女子 16校（公立7校、私立9校）

ベスト4 ①県立大曲高校 ②鶴鳴高校
③名古屋女子商業高校 ④大妻高校

優勝校チーム12人の平均身長 161.2cm

第52回全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会（ウインターカップ）

参加チーム数

男子 60校（公立11校、私立49校）

ベスト4 ①福岡大附属大濠高校 ②帝京長岡高校
③福岡第一高校 ④仙台大明成高校

優勝校チーム12人の平均身長 186.4cm

女子 60校（公立11校、私立49校）

ベスト4 ①桜花学園高校 ②京都精華学園高校
③大阪薫英女学院高校 ④昭和学院高校

優勝校チーム12人の平均身長 174.3cm

3月実施の全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会が1988（昭和63）年から、12月23～29日の冬休みに移行してからは、翌年1月の大学受験を前に控えている高校3年生にとっては、全くの無関心の大会となりました。3月開催の場合には、全国全ての高校生が同一のスタートラインに並んで予選に参加出来ましたが、12月の大会では、予選の段階で早々に3年生が引退してしまっていて、早くも新チームで参加に臨むチームが多くみられました。選手の育成強化には、現在のやり方がよいのかもしれないが、何かすっきりしない印象を受けました。最近、バレーボールも春高バレーから1月開催に時期を移してきました。（サッカーやラグビーは昔から年末年始に実施しています）

その4

第53回 全国ミニバスケットボール大会

2022年3月28～31日 代々木第一・第二体育館

その昔、私は自分の指導している高校のチームをほったらかしにして、滋賀で最初に

会員だより

ミニバスケットボールを創始（1971（昭和46）年8月）しました。翌々年には、全国ミニバスケットボール大会に出場を決める県大会を実施。そこで、男女共に優勝し、監督として3年連続で全国大会に出場しました。

初参加は、第5回全国ミニバスケットボール大会で、1974（昭和49）年3月29～30日に神戸で、第6回ミニバスケットボール大会は、1975（昭和50）年3月28～30日に東京で、第7回全国ミニバスケットボール大会は、1976（昭和51）年3月26～28日に船橋で行われ大会に出場しました。

昨年のインカレは見学出来たので、ミニの大会も見学（無料）出来るものと甘くみていたのがいけなかった。会場の代々木第一体育館の中に入れてくれない。コロナの影響で見学は無理と言われて、滋賀のバスケットボールの関係者だとしつこく言って、辛うじて見学を認めてもらいました。入場するには、大変な努力が必要でした。

久し振りというか、何十年ぶりというか、ミニバスの大会を見学することが出来ました。ペイントゾーン（四角形部分）は、なぜか、ルールの台形のままになっていました。

勿論、ゾーンディフェンスは禁止でマンツーマンディフェンスのみです。昔のミニとは技術も体格も比べようもない程、全ての面に亘って優れていました。

先日、TV番組で小学生の柔道の全国大会の廃止の有無についての討論会を行っているのを見ました。子どもたちの全国大会は健康面や費用、その他の面を含めて廃止してはどうかという意見が多数を占めていました。（読売TV、そこまで言って委員会NP）

ヨーロッパやアメリカでは、18歳未満の全国大会は実施していないと聞いています。

TV番組では、小さい頃から一つの競技にだけに捉われていてよいかどうかという内容でした。

クラブチームになると親の負担が多くなり、更には金銭の負担も多くなってきます。子どもの中に較差が出来るような気がします。小さい頃には、いろいろな種目のスポーツを経験させた方がよいのではないかという話で終わりました。

全国大会までやらなくても、せめて地区大会かブロック大会程度のところで終わった方がよいのではないかと私個人は思います。

その5

第62回関東大学バスケットボール新人大会

2022年6月代々木第二体育館ほか

インカレでは、入場料さえ払えば無条件で試合の見学が出来たので、今回も試合の見学が出来ると思って、代々木第二体育館に見学に行きました。その日は、蒸し暑く、しかも気温の高い日でもありました。12時から第1試合が始まるというので、11時に代々木第二体育館に行きました。入口には中に入らずに外で並んでいる人が多数、待機していました。暑い中、何故、体育館に入れないのかと並んでいる先頭の人に尋ねたら、第1試合のW大が棄権したために、第2試合は、試合の始まる前にしか入場出来ないということでした。この大会では、準々決勝の試合時間を各2時間取ってあったため、外で長時間、待たされました。1時間ほどして、やっと体育館の中に入ることが出来ました。

会員だより

4試合を見学する予定が3試合で終わってしまいました。

翌日は、第1試合の開始が11時からで、7位決定戦が実施される予定でした。10時に体育館に行ったら、先日棄権したチームがあったため、再び、第1試合が中止となり、昨日と同様、体育館の外で1時間程、待たされました。当日も4試合を見学する予定が3試合で終わってしまいました。

暇に任せて、参加38チームの1・2年生の部員807人中、滋賀の高校出身者の数を調べてみたところ、たったの3人でした。(0.4%)

その6

Bリーグを見てのささやかな感想

B1リーグに22チームもあると、その力の差が大きくあり過ぎて、見ていて面白くない試合が沢山ありました。競り合いの多く出る試合が、もっと沢山あってよいのではないかと思います。特に今シーズンは、どのチームも降格なしなので、最下位になっても、その心配はいらないのです。

全ての試合を真剣勝負で戦うには、私が思うには、ダブルスコアの点差で負けたチームには、罰金として、例えば、50万円を課すとか、30点以上離されたときには、30万円、20点以上離されたときには、20万円の罰金を課すとかして、プロスポーツなのだから、もっと強い刺激を与えればよいと思うが、どうでしょうか。そして罰金の半分は相手チームに渡す。

5月28・29日の決勝戦は、宇都宮対琉球の試合でした。両チームのコーチが日本人であったことがとても嬉しかった。日本人同士のコーチの戦いとなりました。私は両チームを同時に応援したくなってきました。B1リーグには、多くの外国人コーチがいますが、その中で、日本人同士のコーチの戦いで決勝戦まで勝ち進んできたこと自体が立派だと思います。これを機に、他の日本人コーチも自信をもって今後を目指してほしいと思います。

B1リーグでは、プロスポーツというのに高校生や大学生（アマチュア）が試合に出ていることがあります。これが野球であると大変な騒動になります。B1リーグでは、プロとアマチュアとが混在している。よくわからない。B1の選手と大学生とは、技術的に見てそんなに遜色はないのだろうかとも思います。

最後に

多くの年代の、また、いろいろな大会を見学して、昔、私のやっていた時代のバスケットボールとは、いろいろな面で大いに異なる風景があちこちの会場で見られました。

試合に親が、あるいは家族が応援に来ている姿を見て大変驚きました。ミニバスならまだしも、高校や大学の試合にも親や家族が応援に来ている姿を見て驚きを禁じ得ませんでした。私の頭が古いのかもかもしれません。男子高校生を教えていたときには、親が試合の見学に来ることを大変嫌がっていました。親は柱の陰に隠れて、息子の試合を見学していました。時代も大きく変わったものですね。おわり

高校籠球ふるさと記（鹿児島県編）

[事務局]

鹿児島県の戦後のバスケットの歴史を語る場合、最初に思い浮かぶのは、黎明期ともいえる 1950 年の志布志高校男子の第 3 回インターハイ（愛知国体）でのベスト 4 入り。土居吉郎監督と野元五造コーチに率いられたチームが成し遂げた快挙である。もう一つは、やや時代が下った 1972 年の鹿児島女子高校。第 25 回インターハイ及び同年開催の国体少年女子で準優勝を飾った快挙である。さて、以上のような快挙を成し遂げた戦後の鹿児島県のバスケットであるが、その嚆矢は、1947 年にバスケットボールを愛好する野元五造の呼びかけで吉岡清、押野慶麿、山下次男が集まり、初代会長に大西栄蔵を迎え、野元五造が理事長で鹿児島県バスケットボール協会を発足させたことであろう。

このような歴史と伝統を誇る鹿児島県のバスケットであるが、本誌では 1948 年（昭和 23 年）から 1988 年（昭和 63 年）迄を対象に、その間、県内で活躍した高校や選手、コーチ・指導者、更には当時の協会関係者にも焦点を当て、鹿児島県の高校バスケット界を通観してみた。内容的には鹿児島県バスケットボール協会創立 50 周年記念誌の他、客観的な資料に依拠し、まとめたつもりであるが、抜けや思い違いがあるかもしれない点、読者の皆様からのご指摘をお待ちしたい。（なお、個人名は敬称略、女性は旧姓、選手の卒業校名の後の数字は西暦卒年、高校名は原則略称）



まずは、男子であるが、大きくは 6 つの期間に分けることができる。

第一期（1948 年—55 年）

冒頭に記した志布志の活躍が目立つ時代。50 年のインターハイ（国体）でのベスト 4 入りは特筆に値する。志布志以外に出水、鹿児島商業、川内商業も頑張っていた。

第二期（1956 年—60 年）

玉龍が強く、インターハイに 4 回出場、それに次ぐのが川内で、1 回出場している。

この時期、活躍した選手では、松本（玉龍 58—近畿大—日本伸銅）、摺木、川原（ともに玉龍 61—近畿大）らがいる。

第三期（1961 年—70 年）

川内商工が圧倒的に強く、インターハイに 8 回出場している。それに次ぐのが川内と鹿児島中央で、各 1 回出場している。

この時期、活躍した選手では、橋元（鹿児島 65—順天堂大）、松村（鹿児島商 67—近畿大）、川添（甲南 68—福岡大）、亀崎（川内 71—中央大）らがいる。

第四期（1971年—77年）

川内が圧倒的な強さを誇り、インターハイに6回出場、77年の第7回ウィンターカップでのベスト8入り、同じく同年の第30回インターハイでのベスト16入りは特筆に値する。それに次ぐのが、鶴丸で1回出場している。

この時期、活躍した選手では、生駒（川内 72—福岡大）、日高（鶴丸 72—東京教育大）、衛藤（川内 73—明治大—熊谷組）、原（鶴丸 73—東大）、遠竹（出水 74—順天堂大）、池田（ラサール 75—東大）、池尻（ラサール 76—東大）、徳留（川内 76—福岡大—東芝）、村上、小島（ともに川内 78—明治大）らがいる。

第五期（1978年—80年）

インターハイには、川内勢に代わり、ラサール、鶴丸、鹿児島商業の鹿児島勢が各1回ずつ出場している。

この時期、活躍した選手では、田中（川内 79—明治大）、辻野（ラサール 79—一橋大）、米倉（鹿児島中央 81—芝浦工大）、逆瀬川（兄）（大島 81—東海大—山梨県教員）らがいる。

第六期（1981年—88年）

インターハイには、川内が6回出場、81年と83年のベスト16入り、84年のベスト8入りは特筆に値する。これに次ぐのが川内実業でインターハイに3回出場している。

この時期、活躍した選手では、逆瀬川（弟）（鹿児島 82—東海大）、南竹（川内 83—東海大）、小林（国分 84—早稲田大）、六反田（甲南 87—京産大—三菱電機）、鮫島（玉龍 88—九州産大）、中村（川内 88—鹿屋体大）らがいる。

次に、女子であるが、大きくは4つの期間に分けることができる。

第一期（1948年—52年）

インターハイには、川内、市立鹿児島、玉龍、蒲生らが出場している。

第二期（1953年—64年）

川内が強さを誇りインターハイに7回出場している。これに次ぐのが、後半台頭してきた鹿児島で63、64と2年連続出場している、これ以外では蒲生、玉龍、照国で各1回出場している。

この時期、活躍した選手では、堂脇（川内 54—日紡山崎）、福山（川内—日紡平野）、下園（入来—日紡平野）、金武（川内—三菱電機名古屋）らがいる。

第三期（1965年—82年）

鹿児島女子が圧倒的な強さを誇り、インターハイに67、76年を除き、16回出場している。72年のインターハイでの準優勝、国体準優勝は特筆に値する。これに次ぐのが、川内商工、川内、串木野女子で各1回出場している。鹿児島女子が赤池監督、野元コーチのもと、67年1月開催の全日本選手権に九州代表として出場しているが、これも特筆に値する。

この時期、活躍した選手では、重留（鹿児島樋脇－大阪女子短大）、前田（鹿児島女子 73－ユニチカ）、松尾（鹿児島女子 73－三井生命）、竹本（川内商工 73－三菱電機名古屋）、中山（鹿児島女子 75－ユニチカ）、塩川（鹿児島女子 76－ユニチカ）、久保（鹿児島女子 79－ユニチカ）、田ノ上（鹿児島女子 79－樟蔭東女子短大）、宮原（種子島実業 81－日本通運）、有村（指宿商 82－三菱電機名古屋）、西川（鹿児島女子 82－日女体大）らがいる。

第四期（1983 年－88 年）

川内、鹿児島女子、串木野女子の三竦みの時代。インターハイには、川内が 2 回、鹿児島女子が 3 回、串木野女子が 1 回出場している。また、この頃より川内純心の台頭も目立ってきた。

この時期、活躍した選手では、米山（鹿児島中央 85－鹿屋体大）、穎川（川内純心女子 86－長崎県立短大－三洋電機）、松山（鹿児島女子 86－第一勧銀）、宮園（鹿児島女子 88－三井生命）、山脇（川内純心女子 89－三洋電機）、梶尾（串木野女子 89－共同石油）、馬場園（鹿児島女子 89－日本興業銀行）らがいる。

<コーチ・指導者>

- ・野元 五造 土居吉郎監督のもと、コーチとして当時無名であった志布志高校を指導し、1950 年の第 3 回インターハイ（愛知国体）でチームをベスト 4 に導いた名将。1952 年から約 10 年間、県内各地で指導者講習会を開催する等、鹿児島のバスケットを再生し、独り歩きさせた功労者でもある。
- ・押野 慶喜 女子第二期に活躍を誇っていた川内高校女子部監督としてチームを指導し、多くの人材を実業団に送り出した名将・名伯楽。
- ・川田 隆一 1969 年から監督として鹿児島女子高校を指導、その厳しい指導で、1972 年のインターハイ、国体準優勝を始め、同校の輝かしい戦績をもたらした名将。
- ・三好 邦夫 男子第四期、五期に活躍のラサール高校を指導、名勝負師と謳われた名将。

<協会関係者>

- ・大西 栄蔵 会長 1947 年－58 年
- 野元 五造 理事長 1948 年－58 年
初代理事長 協会設立呼びかけ人 戦後の混乱の中から鹿児島県のバスケットボールを再生し、近隣の県をリードし、3 県対抗大会を立ち上げた。
また、審判長としても審判員の要請に尽力した。
- ・村田 継男 会長 1959 年－94 年
- 奥野 宗男 理事長 1958 年－59 年
- 野元 五造 理事長 1959 年－68 年
- 木之瀬 茂生 理事長 1969 年－74 年

長尾 成明 理事長 1975年—80年

岩戸 博孝 理事長 1981年—86年

九州高体連会長職にあったこともあり、82年の高校総体の鹿児島県開催に中心となって活動した。男女会場が別々になる初めての大会で、苦勞も多かったが、それを成功裏に導き、その後のバスケット人口の底辺の広がりにつながった。

志布志高校—鹿児島大学—鹿児島県教員。1959年から川内高校を指導。

末永 皓久 理事長 1987年—91年

県高等学校体育連盟バスケットボール歴代専門委員長

木之瀬 茂生 1968年—69年

岩戸 博孝 1970年—80年

中村 俊次 1981年—95年

鹿児島高校の教員として男女を指導する傍ら、県全体のチーム力の底上げに尽力した。

<その他>

- ・ 鮫島 俊秀 1955年鹿児島県生まれ。九州大学卒業後、鹿児島高専教員を勤める傍ら、長年にわたり、県協会の専務理事等として活躍。
2008年からはJBL2のレノヴァ鹿児島のヘッドコーチとしてチームを指揮、2016年以降、B2の鹿児島レブナイズ（レノヴァから改称）でもヘッドコーチを務めた。鹿児島バスケットボール歴史の研究者でもあり、その関係の論文をいくつか著している。

【編集後記】

今回、鹿児島の高校バスケットボールの歴史を通観するに際し、資料の提供や情報の整理の面で、鹿児島県バスケットボール協会広報委員長の濱田浩司様には、多大なご協力を賜った。誌面を借りて謝意を表したい。

以上

訃 報

正田 宏二 氏 令和4年7月10日 享年92

長年にわたり、振興会会員として、日本バスケットボール界発展のため多大のご尽力を賜りました。

ここに、謹んで哀悼の意を捧げ、ご冥福をお祈り申し上げます。

正田さん ご苦勞様でした

羽佐田 恭正



正田宏二さんが令和4年7月10日突如お亡くなりになりました。

ご自分の会社の、社長、会長を務められ、相談役になられてからは、週2日会社に出られ、週3日は身体の治療、お宅ではピアノの演奏や、お茶を楽しまれていられました。

昭和4年(1929)にお生まれになり、学習院初等科、中等科、高等科と進まれて、東京大学を受験、見事に一発で合格されました。正田醤油社長の伯父の家に子どもが無かったため、早くから跡継ぎに決められていた模様で大学も農学部を選ばれました。

戦前の学習院高等科には陸上部や野球部がありましたが、籠球部はありませんでした。戦後に部が出来、入部されました。部は関東高校秋季リーグに参加しましたが、最初の年はバスケットの歴史が古い一高や成蹊、成城、武蔵に勝つことが出来ませんでした。翌年から勝ったり負けたりと少しずつ力をつけて行き、籠球部の基礎を作られました。部で発行された第1号の【部報】の中に「実力のないもの」という題でインターハイ予選、対戦した武蔵高に惜敗した時の状況を書かれています。

東大のバスケットは関東大学連盟の1部で活躍していましたが、段々と1部の最下位になり、2部で力をつけて来た明治大学と入れ替え戦を戦い、昭和27年(1952)に入れ替え戦で敗れました。正田さんは1部での最後の戦いをされました。

当振興会へは東大の選手時代の監督であった池田博氏に勧められて入会されました。

大学のバスケット部で活動される一方、後輩の中等科や高等科の指導をされ、昭和31年(1956)から33年まで監督を務められ、合宿練習にも参加されました。

大学卒業後、予定された正田醤油に入社され、本社の館林に住まわれました。入社早々から、夜勤や、休日出勤も多く積極的に業務改善に取り組みられました。2年後在籍のまま1年間東京大学応用微生物研究所に留学され研究を極められました。

取締役、専務取締役を経て昭和38年(1963)には代表取締役に就任、社業を発展されまし

た。

その間、高等科と東京高等師範附属高(現筑波大学附属高)と毎年6月開催のバスケットの試合には随時館林から応援に駆け付けられました。

その後、OB会の会長に就任され、平成6年(1994)にはメンバーコースの桃里カントリー倶楽部で後輩のOB・OGを集めてゴルフ会を開催。平成8年(1996)11月に創部50周年の記念式典を開催、在学中にバスケットのクラブチームに所属された常陸宮正仁殿下と華子妃殿下をお揃いでお迎えしました。

社業では、会社の工場の生産力を拡大し、新工場を建設、営業所や関係会社も大幅に増やされました。

会社の地元では、館林商工会議所会頭や全国醤油工業組合連合会会長、群馬県公安委員長を委嘱されています。数々の要職に就かれる一方、群馬県バスケットボール協会会長にも就かれました。平成12年(2000)に勲三等瑞宝章受章、それに先立ち昭和61年(1986)には藍綬褒章を受章されています。

最後に、正田家では【青天のへきれき】とされていますが、正田さんのいとこの子どもの美智子様の婚約発表があった時のことです。父君は聞かされていたようですが、ご本人は発表の当日に報告を受けて驚いたと綴っています。7月の正田さん葬儀の際には上皇、上皇后陛下より供花を頂きました。合掌



写真はご家族により提供 東大時代バスケット部の正田さん(21番)

事務局だより

[事務局]

- ◇ 「第13回シニアバスケットボール交歓大会 in YOYOGI」に、参加した多くのチームの皆さんから感謝の感想をいただきました。コロナ感染第8波の兆しのみえる環境のなかで参加していただいたチームの皆さんに事務局からも感謝を申し上げます。
- ◇ シニア層の皆さんが楽しく参加する交歓大会を企画しています。参加するチームの皆さんのご意見をお聞きし、実現を図りたいと考えています。
- ◇ 5年毎に改定される「スポーツ基本法」で「スポーツ権」とは国民が自主的にスポーツを行う権利であり、あらゆる場面においてスポーツを行う権利の確保が図られる必要があると定められています。それに新たにスポーツを通じた「共生社会の実現を目指す」ことも加えられています。
- ◇ 会費納入のお願い
今年度会費の納入をお願いしておりますが、まだ会費の納入がお済みでない方は納入をお願いいたします。振興会は会員の皆さんの会費によって運営されておりますので、ご理解ご協力をお願い申し上げます。

振込み口座番号

ゆうちょ銀行

00100-3-316035

NPO法人日本バスケットボール振興会

三菱UFJ銀行

神保町支店 普通預金口座 1684743
特定非営利活動法人日本バスケットボール振興会

みずほ銀行

丸の内中央支店 普通預金口座 1004687
特定非営利活動法人日本バスケットボール振興会



プラザ こぼればなし

- ◇ 2023年に日本、フィリピン、インドネシアで共同開催される男子W杯に向けて、アジア地域（オセアニアを含む）で予選ラウンドが開催されているが、日本は開催国枠での出場ができるせいか今一つ勝利へ向けての執念や迫力に欠けている。既に予選で戦ったオーストラリアや中国に歯が立たなかった。スポーツは世界の強豪と対等に戦えなければ人気は上がらない。サッカーW杯の日本代表を見習ってほしい。
- ◇ 令和4年度第75回全国高等学校バスケットボール選手権大会「SoftBank ウインターカップ2022」が今年も12月23日から29日まで東京体育館と大田区体育館で開催される。師走の忙しい時期だがテレビ放映もあり毎年その人気度は抜群。バスケットボールファンの郷土愛も後押ししているのかもしれない。
- ◇ 令和4年度第74回全日本大学バスケットボール選手権大会が2022年12月3日(土)～12月11日(日)に開催され、男女各40校が参加した。本大会より下位24チームによる8グループのグループステージを行い、各ブロックの1位8チームが上位リーグ16チームと決勝トーナメントに出場する競技方式となった。男女決勝戦は12月11日(日)に国立代々木競技場第二体育館で行われ、男子は東海大学(2年ぶり7回目)、女子は東京医療保健大学(6年連続6回目)が優勝した。
- ◇ 最近、「渡辺雄太」選手、NBAでの日本人選手の活躍記事で頼もしい。これに負けまいと活躍する八村塁選手の報道も盛んである。2023年8月のワールドカップで日本代表としての活躍に期待したい。
- ◇ 今号、須田武志氏の〈会員だより〉「バスケット行脚」から、公立高校と私立高校の「学校体育」の現状が大きく変化していることがわかる。「強化」と教育の現場が変わりつつある。
- ◇ 今シーズンのBリーグは、東地区、中地区、西地区の3地区に分かれてリーグ戦の最中だがいずれの地区でも上位クラブの競り合いが続き興味深い。プロ所以か各クラブとも移籍などによって強化した結果が表れ、人気の面でもその地区に好結果をもたらしているようだ。
- ◇ 「U18日清食品トップリーグ」が高校生世代の育成・強化を目的に今年から開設された。昨年度の高校総体や全国高校選手権(ウインターカップ)の成績を得点化し、男女の上位8チームが参加。約3カ月、1回戦総当たりのリーグ戦形式で各7試合を戦った。全国の強豪校が高校生の段階で定期的に戦うリーグ戦は画期的だが、U18の選手たちの強化にどの程度の効果が期待できるかどうか。

以上

NPO法人
日本バスケットボール振興会
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-40
豊明ビル 301号室
電話／FAX (03) 3219-9311
メール contact@jbbs.jp

第13回シニア交歓大会・ベストプレイ集

